第一巻第一號 大正十二年二月號 每月一回一日發行
大正十二年一月三十日 第三種郵便物認可

戰鬪雜誌

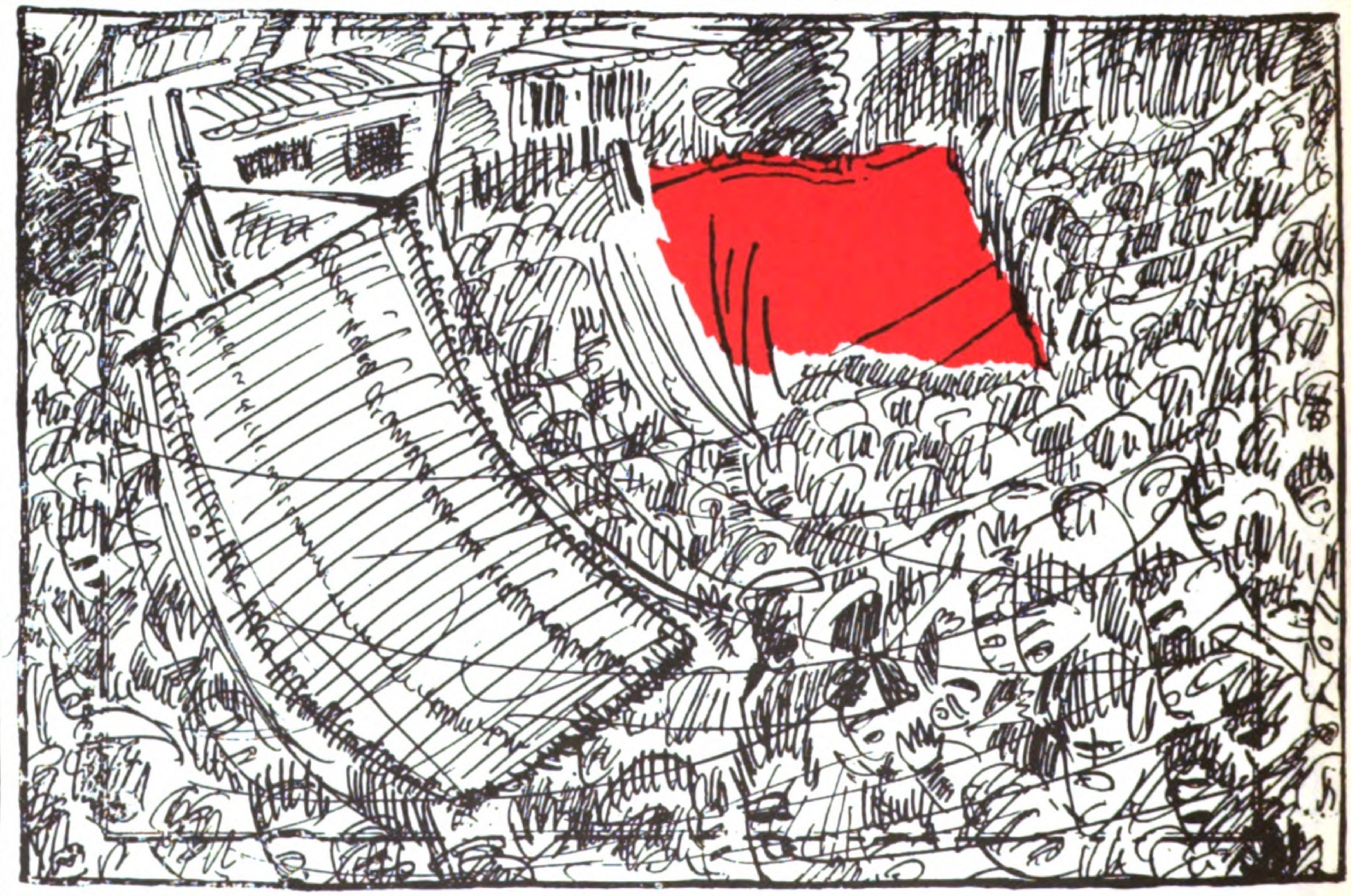
Fighting Magazine
Su Su Me.
No. 1. vol. 1.
Feb. 1923

進め

一部十錢

第一巻第一號內容

吾等の視野(時評)……福田狂二・北原龍雄
ボルシエヴヰズムの日本化…北原龍雄　鈴ヶ森だより……同人
無產階級と水平社運動……高橋貞樹　巨大なる先生……
白色の妖怪に對抗せよ……山川均
片山潜氏の記憶……福田狂二　女同胞……岡千代彦
痛味と痛快味……二十餘人　東西南北の見舞……各階級・各種類
勞働運動と小作運動とは背馳せざるか……勞働者・學者・小作人・思想家・等三十餘人
知人・同志・友人……エロシエンコ・糸川二二郎・伊藤三郎
軍隊で暴れた話……福田狂二　賣笑婦のシベリヤ撤退……伊井敬
進めと守れ……堺利彥
共同戰線と民族……金若水　革命を守る魂……
獄中吟……高野松太郎　勞働者と小作人との對話……
社會運動の經驗と思ひ出……荒畑寒村・加藤勘十・水沼辰夫・加藤一夫・京谷周一・吉田只次



福田狂二 發行　北原龍雄 編輯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本叛逆史

福田狂二著

三月上旬刊行
四六版約五百頁

私は反逆が好きである。すべての反逆物語は、少年時代から最も嬉しい讀物であつた。それと共に何時も自分自身をその物語の中へ投げ込んで、夢のやうな想像を樂しんだものである。十九才、社會主義者の中に交を得始めて反逆運動の一端に連なるを得たと考へた時の喜びは今に忘るゝ事が出來ない。軍隊に入つて、嚴重なる規律の中へ縛り付けられても、胸をそゝる反逆の激情は消え去らず、鐵板を突き破るやうな思ひで屢々それを爆發させた。前後通計七年八ヶ月、鐵窓の下に沈思省察の日を送つた間からも、反逆に對する愛着は、益々熱と力とを帶びて來た。

靜かに既往の生活を顧みる時、常に何事かを爲さんとしつゝ、何事も爲し得なかつた事を思ふ時、人に對するよりも、私は私自身の反逆心に恥づかしさを覺ゆる。併しながら、人間の志業は時の力を借らなければ行はれない。物足らぬ思ひに日を送る者、決して私一人ではないであらう。

かゝる日を送る間に、私はせめて我等の祖先が反覆して來た反逆戰の跡を偲ぶ事とした。そうして最も深く史籍を讀まんが爲めに自ら反逆史の稿を草する事とした。それが卽ち本書である。

私に素より深き史學の素養はないが、骨髓に泌む反逆の心を抱いて史書に對した。眼光自ら史背に徹するもの無からざるを得ない。所謂史家の觸るゝ能はざりし所の、我等の民族の血脈に波打ちし反逆の魂を、紙背より掴み來りて展開した所に一點の特色あるを自信する。又、志情を同じうする友人北原龍雄君が、その唯物史觀的史眼を以つて助勢してくれた事に依つて、稍もすれば激越に逸せんとする筆に、純正なる科學的理路を辿らしめ得た所に、本書が單なる慷慨の文字にあらざるを自信する。（著者）

惡魔の如き過激法案を粉碎せよ

過激社會運動取締法案は、通過の見込さへ立次第提出せうと云ふのが、政府の眞意だと推斷せられる。去年此法案が空間に消滅したのは、議會內部の反對勢力の爲めであつた。本年は反對勢力に對する暗中の妥協策に努力して、既に安心點に達して居るとの事である。

故に、現在にての問題は、たゞ一般大衆の顏色にある。大衆の眼が憤激に血走つて來ない限り、法案は通過の成算ありと見て取られる譯である。

議會に現はれたる極惡法案を粉碎する事は素より痛快であるが、愚劣なるブルジョア政治家を畏縮せしめて、法案提出の熱望を放擲せしむることは更に痛快でもあり、我が大衆の政治的勢力を增進せしむる上より見て更に必要である。かゝる法案が頭上に現はるゝこと自體が、我が大衆に取つて、謂はゞ絕大の侮辱である。願はくばかゝる極惡法案は出現前に霧散せしめなければならぬ。而してそれは、たゞ大衆自身の蹶起に依つてのみ行はるゝことである。

我等は今、極度の決意を以つて起たなければならぬ。

特に、望ましきは、地方に於ける同志諸君の努力である。願はくば諸君は周圍の同志と結んで惡魔の如き、此の法案に對する反對の意志と憤激の心とを宣明せよ。諸君の叫びは必ず數倍の反響を喚び起すであらう。大衆の情意は、たゞそこにのみ表明せられる。ブルジョア政治家を戰慄せしむる威力は、諸君の其の叫び聲の他からは生れ得ないのである。

全日本の野にも山にも諸君の血叫びが滿ち滿つる時、何者の力がそれに對抗し得るものぞ。政府は實に諸君の顏色を窺ひつゝ、惡魔の法案を抱きしめて居るのである。諸君が起ち上るか否かに依つて此の惡魔の運命は決せらるゝのである。

願はくば、此の文章を手にせられたる諸君が、若し過激法案が我がプロレタリア運動の前途に投げられた一大暗影であることを考へる點に於て、我々と心を同じうするならば、どうぞ此の運動に力を加へやうと決心して載きたい。それは先づ、諸君の思ひ思ひの叫び聲から始まらなければならぬ。一人二人の力を微弱なりと考へてはならぬ。諸君の一人一人を他にして日本の大衆はないではないか。

惡魔の如き法案は、まさに現はれやうとして居る。たゞ諸君の力に依つてのみ、それを壓殺するを得る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カツトの含む意味

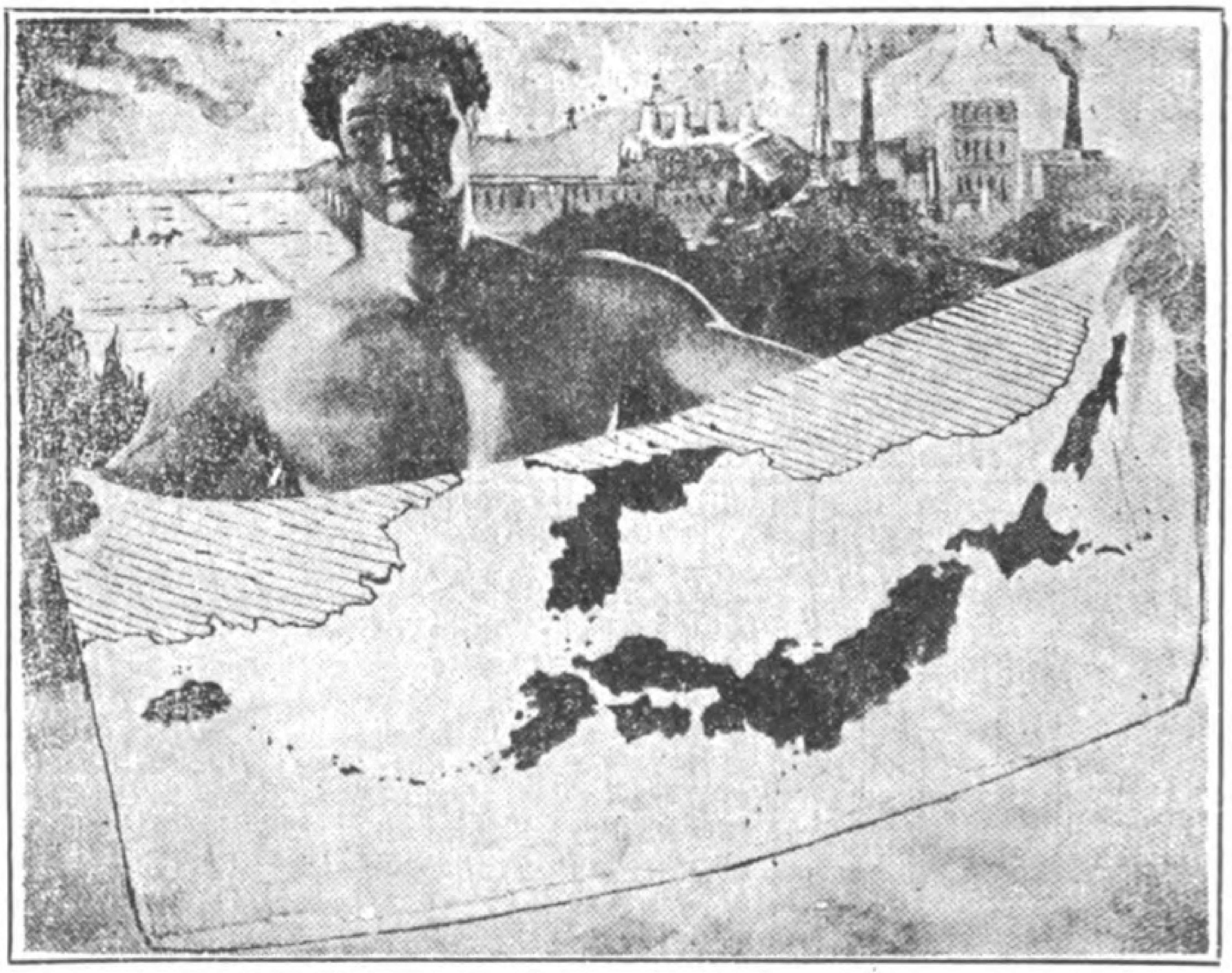
各國プロレタリアの團結は、世界的革命戰術の不變の原理である。併しながらその提唱は、一國家のプロレタリアの結合の價値否定若しくは價値輕視な意味はない。

世界のプロレタリアの戰鬪的團結は、個人々々の直接の結合に依るべきか、又先づ幾つかの部分的結合を生じてその再結合に依るべきか。換言すれば單一社會として成立するであらうか、又復合社會として成立するであらうか。

それは明かに後者でなければならぬ。そうして部分的結合は國境を紐帶として行はれなければならぬ。蓋し一つの國家は現在の政治的權力の單位を爲すからである。

されば、我々の眼前の仕事は、全日本のプロレタリアの結合を完成せしむる事である。それを成し遂げなければ、インターナショナルの精神も空間に消滅するであらう。

工場から、農村から、鑛山から、全日本のプロレタリア團結せよ！。



大正十二年二月　戰鬪・進め・雜誌　第一卷第一號

ボルシェヴヰズムの日本化

一　日本に最も適する革命運動の政治的形態が、ボルシエウキズムである事を私等は信ずる。その事自體は、今ではもう論爭の必要はないまでに、一般の肯定を得て居ると思ふ。無政府主義者のヒステリカルな批評や、反動主義者の低能な論難の如きは、素より鎧袖一觸すれば足る。

併しながら、ボルシエヴヰズムの露西亞に於て現はれたる姿は、そのまゝ日本に取り入れられるものではなくて、幾つかの修正すべき部分があると思ふ。

二　個人にも社會にも、普遍性と特異性とがある。普遍性は共通の現象を喚び起し、特異性は個別的の現象を發生せしむる。

封建制度の倒壞と資本制度の生成は、すべての近世國家に共通した現象である。之はすべての國家の普遍性から來る。併しながら此の社會的推轉が行はれた過程は、それ〴〵姿を異にしてゐる。之は諸々の國家の特異性が働いた爲めである。かゝる、共通點と個別點とは、今後の社會革命の上にも豫期せられなければならぬ。

英國の革命は議會に依つて行はるゝではないかと見る人がある。その人達に依れば、英國に於てはプロレタリアの完全なる權力執行が議會を通じて行はるゝ、換言すれば議會及びその附屬機關が、ソヴエツトの機能を完全に吸收するのである。假りに此の見解が當るとすれば、英國と露西亞とは、マルクス說の實現する點に於ては共通するだけの普遍性が存在するが、革命の政治的行程は、全く別個のものたらしむるだけに、兩國の特異性は著しい事が認められる。

ゾムバルトは、米國には社會主義運動の起り得ない事を提示してゐる。要するに米國の廣大なる自然界と渡來する移住勞働者とは、先行の勞働者を容易に小資本家たらしめる。隨つてこゝでは、階級の固定を見る事が出來ず、人々の努力は資本の獲得に向つて注がれると言ふのである。此の斷定は、時間の力に依つて早晩打破せらるべきものであつた事は言ふまでもないが、それにしても歐洲の諸資本主義國と米國との間には、著しい特異性が含まれて居た事が認められる。

かく、國家相互の特異性は露西亞と英國との如く、革命行程を全く異ならしむる事もあれば、米國と歐洲諸國との如く、革命發生の時間的差異を抱く塲合も考へ得るとすれば、同一形態の革命行程の中に部分的差異の含まるゝが如きは、容易に認められなければならぬ。

三　革命行程の形態を決定するやうな、諸國家間の普遍性及び特異性の要因はすべての政治的、經濟的、社會的條件であるが、特に有力なるものは、國民の性情、國家の地理的條件、軍隊及在鄉軍人の狀態、産業の發達階段、支配階級内部の分裂狀態、小資本家の勢力、國内の諸團體及諸小社會の狀態等である。露西亞に取り入れられたボルシセヴヰズムが日本にも適すると考へられるは、是等諸々の事情の上に、大體上の一致があるからであるが、同時にそれ〴〵の程度の差異が認められる所に、ボルシエヴヰズムの部分的修正を必要ならしめる。

四　如上の提唱が幸に肯定せらるゝならば、私等は、日本に於ける共産主義の理論的方面に一つの仕事が課せられてゐる事を信じなければならぬ。それはボルシエヴヰズムを日本の諸事情に密着せしむるべく、修正を試みることである。

ボルシエヴヰズムの日本化。それが先づ理論的に爲し遂げられた時、我がボルシエヴヰズムの運動は、新らしき力を得來るであらう。（北原龍雄）

我等の視野
——時評——

福田狂二
北原龍雄

渦心農村に移る

日本の社會問題は明かに重心を農村に移して來た。地主との階級的對立關係を認識した小作人は、先づ地主に抗爭し、次に地主の擁護者たる××に抗爭し、地主への盲從を指示する所の傳統の宗教、道徳、慣習に抗爭するやうになつた。こゝに社會問題の渦亂は卷き起されたのである。

全國の地方々々は、諸々の社會的或は自然的條件を異にするが、小作人と地主との關係は、全地方を通じ、全農村を通じて一致共通して居る。此の普遍性に基いて起つた小作人運動は、全地方、全農村に普及せざるを得ない。かくて小作爭議は今や全國的の事象となつたのである。此の點に於て、個々の具體的虐政に憤激した昔の一揆や、用水分配の闘爭、課税上の紛爭等と性質を異にする。

小作爭議の全國的傳播を、模倣を以て說明せうとする人が多い。併しながら、模倣はすべて共通した欲望がなければ行はれない。苟くも階級的對立を認識したプロレタリアは、同一の心理を抱いて相手の階級を睥んでゐる。そこには共通せる欲望が無からざるを得ない。それだから模倣が行はれるのである。

爭議の發生を先行者の煽動に出づるとする見解も類似の誤謬である。煽動とはある欲望を抱く者に向つて、その充足を促す行爲に過ぎぬ。すべての行爲が無條件に許されてゐる地主、國家等が反爭議の煽動を行はない事に見るも、謂ふ所の煽動が講演やビラのみに依つて行はれ得るものでない事がわかる。

要するにすべての小作人は共通の意識と共通の欲望を抱いてゐる。そうしてかゝる意識や欲望は、決して空間から生れたものではない。地主と小作人との階級的對立と言ふ眼前の活きた事實に基づいて、それから生れ出でゝゐるのである。

小作運動の強味

農業は人に信念と決意とを養はしめるものだ。播いた種は必ず生えるが收穫を得るは一年近い後の事である。その間、最善の努力を盡さなければならないが、決定的の成果は自然に待つの他はない。所謂人事を盡して天命を待つ具合は農作に於て最も切實に現はれてゐる。

此の農作生活を續けて來た小作人は、爭議に對しても同一の心理的態度を以て臨む事が出來る。爭議の成果を一年位の後に期待する位の餘裕がある。最後の運命は天に任すと言ふ、一種の樂天氣分で而かも最善の努力は續ける。此の點に小作運動は先づ絕大の強味がある。

更に小作人は多くの場合、食料だけは所有して居る。都市の勞働者が爭議を續けて居る間は收入が杜絕してゐるに反し、小作人はその間だけは地代の支拂も引き延ばし得る。

此の心理上の強味と經濟上の強味とに依りて小作爭議は深き底力を潛めて居るのである。

更に小作爭議が、發展して大規模化し、白熱化し、××化した時に、その進行に對して最も有利なる條件は、農村の×××は都市に於けるが如く密集してゐない事と、××の大多數が小作人なる事である。されど、小作人が此の強味を意識し經驗する日は、それはもう小作人だけの強味ではなく、全プロレタリア階級の強味である。

自作化論の破綻

政治家、學者などから出る農村論の本流は、紙型で印刷したやうに『小作人の自作農化』に歸着する。小作人に土地を得させて自作農にならしめやうと言ふのである。政友會もそれだ。憲政會もそれだ。何々博士、何々委員皆んなそれだ。彼等の論爭點『研究』點は、たゞその實現方法にあるらしい。

併し彼等は小作人が全部自作農化すれば、地主は同時に滅亡しなければならぬ事を考へてゐるだらうか。小作人あればこそ地主である。小作人が無くなつて、年貢米とか、小作米とか、地代とかの名の下に默つて、搾取られる米を作る者がなくなれば、地主の倉庫は眞空になるの他はない。それで自作農化論は要するに地主の撲滅論なのだ。若し、彼等の考へが、天下の百姓を地主と自作農とだけにせうと言ふにあるとすれば、それは、泥棒を殘して被害者だけを無くせうとの注文である。之ほど確實な不可能事はない。

地主を擁護し、地主制度を維持せんが爲め、謂はゞ地主の藩屏として自作農を作らうとの下心から來た所の、いゝ小作人自作農化の主張が、ゆくりなくも地主撲滅の主張を含んで居るとは、滑稽である。こうした矛盾は、搾取の爲めの生產機關の私有——即ち地主資本家の階級の存在——を支持しながらそれから來る禍だけを取り除こうとする無理に原因する。資本主義社會の行詰りは、かゝる矛盾に依つて巧妙に說明せられてゐる。

AとBとの問題

去年の初秋の、大阪の勞働大會以來アナキズムとボルシエヴヰズムとの闘爭は油が乘り切つてゐる。アナとボルとが、政治學的にも經濟學的にもソリの合はない事は明かである。隨つてそこから來る衝突は階級闘爭と同樣、二つが對立して居る限り罷むものではない。併し、その事がアナストとボルストとの、人と人との闘爭の必然を意味するとは言へない。

思想は思想を以て責めよとは、法律と機關銃とを有する政府や政黨の奴等さへ口癖にしてゐる。アナとボルとの爭ひも何も相手のキャラクターにまで立入つて、畜入りの豚にしたりゴマノハイにしたりしなくてもいゝではないか。殊にそうする事が思想上の闘爭の戰術だと思つてゐるとすれば、過激法案で敵の思想が潰せると思つてゐる政

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

府以上の錯誤である。類似せる者の差異點は目に付き易い。世上の素人には同類と思はれる程のアナとボルとの間だから、相互の差異點が特に目に付くのも無理はない。併し、そうした生物學的心理傾向に反いて、差異點を爭ふと共に類似點を認めて行く位の聰明は、謂ふ所の『戰術』の上から見ても萬更無用のものではないであらう。イヤに話が世話に碎けるけれど……。

思想と思想家

勞働者の所謂幹部の間に、『主義者排斥』の聲が大分モテて居るやうである。彼等は謂ふ、主義者は縄張りを作らうとばかりしやがるから――、主義者は自分の內輪喧嘩の背景や道具に使はうとしやがるから――と。そこまでは私等も同感である。併しその次に、だから我々は、無政府主義にも、共產主義にも依らず、勞働階級の同類意識や類似親和の感情に依つて資本主義を倒すべく進むんだ――と來るのは間違ひである。誰だつて資本主義を倒さないとは言ひやしない、唯問題は如何にして倒すかにある。アナもボルも、その問題に對する解答として提唱されてゐるんだ。

思想には思想を以て戰へとの言ひ草はこゝにも當て嵌まる。

アナとボルとを合葬せうと思へば、革命の行程としてアナよりもボルよりも優れたる思想を創造或は輸入するの他はない。無思想を標榜して思想否定を强調せんとするが如きは無謀で生意氣である。

アナだらうがボルだらうが、何某々々等の、あの鼻に付く縄張り運動を見て居ると私等だつて唾を吐きたくなる。併しそれは、主義者と言ふ人の問題であつて、アナとボルとの思想それ自體ではない。坊主とケサとを同時に憎むさへ觀念の錯綜であるが、況して思想自體と思想家の性格とには、坊主とケサとに於けるだけの不可分離性の關係はない。思想家の行爲に對する反感をそのまゝ思想そのものに適用するは、山崎今朝彌君と法律とを混同するに等しい。

五年前のレーニン

レーニンが世に現はれて滿五年を過ぎた。獨探！ 暗殺！ 逃走！ 病死！ 發狂！ 襲砕！ 等、資本主義新聞の雨の如き讒辭の中に堂々として彼は濶歩して來た。そして彼と彼の仕ふる勞農露西亞とは今益々健在である。然しながら、若し五年前の彼と今の彼とをよく比べたならば、累年の革命苦勞にさぞ額の皺が多くなつた事であろう。

『政治運動へ！』

政治運動へ！との叫び聲が諸々の方面から高まつて來た。所謂經濟運動の一元的全盛と見えた、社會思想界、勞働運動界に、今や逆風が吹き始めた。

社會運動を經濟運動と政治運動とに分離する事には隨分無理があるが、此の無理を通すとすれば、經濟運動は眼前の經濟上の要求を直接充足する爲めの運動であると概念し、政治運動は國家の權力の作用內容を變更或は修正する運動であると概念するの他はない。

資本主義社會に於ける、プロレタリア階級の運動は、結局自己の被むる搾取を輕減或は廢絶するが爲めのものであるから、此の意味に於ては一切合切經濟運動である。所が、資本家は國家の權力に依つてその立場を支持してゐる。搾取關係それ自體も、搾取の形式や程度も、すべて權力に依つて護られてゐる。それは法律の條文の一瞥に依つて明かだ。隨つて權力の作用に變化があれば、直ちに資本家の立場に多かれ少なかれ動搖が來なければならぬ。そこで、プロレタリアの欲望を充たす爲めに、直接資本家を相手にせず、その背後の權力に迫る。それが即ち政治運動である。

元來、政治運動の價値否定は、國家及び權力の本質的否定に根ざす觀念で、謂はゞアナキズム的のものである。故に、勞農國家の出現に驚いて以來、本質的には國家を認め、權力を認むる事となつた人々に取りては、最早や政治運動の一般的否定は許されなくなつた。

運動の對象が國家權力である限り、運動の形式が何であらうと、即ち議會運動であらうと街頭運動であらうと、膝詰運動であらうと、政治運動たる點に變りはない。併しながら、政治運動に取つて議會は重要なる部分である。議會の評價に際して陷り易き誤りは、議會運動と議會主義との混同である。議會主義とは議會を以て革命行程の本流とする見解であるが、議會運動とは議會を運動の一機關として利用する觀念である。議會を取扱ふ態度がまるで違つてゐる。隨つて、議會主義が既に破綻してゐるからと言つて、直ちに議會運動を冷蔑する事は、氣の早過ぎる失當である。

政治運動の革命性

社會運動を改良性のものと革命性のものとに分類する事は妥當であらう。經濟運動は結局革命的のものにならぬ。假りに經濟運動の主體が革命的のものとなるとすれば、その時はもう新らしく政治運動の機能を含んで居るとの考へは、私等の久しく抱く所であつたが、今も尙ほ之を更め得ない。

前にも謂つた如く、資本主義制度が權力に依つて支持さるゝ限り、革命の行程が、權力に關れないで濟ませやうとは思はれぬ。それならば政治運動こそ、革命性の運動の本流でなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

經濟運動が、假令最終の目標を何に置くにせよ、前進の一歩々々を自分の經濟的利益の增進に置く限り、一方に於ては、それ〲の生産部門間に對立があり、他の一方には、生産者としての立場と消費者としての立場との間に衝突がある。別項に多くの人の見解を質して解決を試みた所の、小作人と賃銀勞働者との利益の背馳の如きもその一つの場合である。是等の衝突は表面に現はるゝとは極つて居らぬ。又當事者の意識に上ると極つて居らぬ。言はゞ本質上の關係であつて、當事者は知らず知らずその中に落ち込んで行くのである。此の對立と衝突を免るゝには眼前直接の經濟的要求を離るゝの他はない。即ち運動が政治運動となるの他はないのである。

一つの國家に於て權力の中樞はたゞ一つである。政治運動がそれに集中するものなる限り、分裂し錯綜するの理由はない。

此の事は、政治運動のある一つの形態が、全プロレタリアを包容し得る場合の可能を意味すると共に、異る形態の運動相互の間に、緊密なる結合を喚び起し得る事をも意味する。此の點にも亦政治運動の革命性を認めなければならぬ。

政治的勢力の分布

日本に於ける政治運動について、何事かを考へる時、見逃すことの出來ないのは、諸々の政治的勢力である。

政治的勢力は、經濟的勢力の反映であるとの見解は、抽象的概念としては妥當である。併しながら、政治的勢力は自律化する。ある經濟的勢力が、其の反映たる一つの政治的勢力を生成せしめたとする、其後この經濟的勢力は、社會進化の途上に消滅したとしても、一方の政治的勢力は、それと共に必ずしも消滅するものでなく、暫らくは自律の存在を續け得るものである。此の點に關しては、廣大なる社會學的論證を用ゆるまでもなく、現在の日本に封建時代の勢力が尚ほ政治的生命を維持して居ることに依つて、容易に肯定せられ得るであらう。

此の事情に依つて、一つの國家の政治的勢力の分布は、經濟的勢力のそれよりも、一層複雜でなければならぬ。例へば、資本主義生産が、或る程度の發達を遂げ、社會は既にブルジョアとプロレタリアとの二大階級に、分割し盡された時にも、政治の世界には、尚ほ他の勢力が蟠居することもあり得るのである。

故に、經濟的本質より見れば、階級鬪爭は二つの階級の單純なる正面衝突の他ないのであるが、政治運動としては、其の世界に分布せる他の諸勢力との間の、錯綜せる關係が考へ得られるのである。

此の樣な見地より、現在の日本の政治的勢力を一瞥すれば、大體四つの系統を見出すことが出來る。

其の第一は、資本主義の勢力を代表する衆議院の系統であつて、第二は、封建勢力の傳統に立脚すると見るべき、所謂藩閥の勢力である。第三は、小資本家地主を代表せる系統であつて、第四がプロレタリアの勢力である。

此の中で、第一の勢力は衆議院の大部分と貴族院の一部分とに、地歩を有して居つて、第二の勢力は、貴族院の一部及び樞密院等を根據として居る。第三の勢力は、衆議院の一部分に、僅かに其の姿を現はして居る。第四の勢力は、今新しく組織せられんとして居るものであつて、未だ制度の上に何等の立場を有して居らない。

政治的戰術の錯綜性

プロレタリアの政治運動は、此の所謂第四の勢力が、組織化せられて第一の勢力に對抗し鬪爭する過程である。故に、當面の敵は明に第一の勢力でなければならぬ。他の勢力は、本來傍流に屬するものである。蓋し、資本主義社會の經濟的本流は、資本家と無産者との二つの階級に分裂すべきに見て、他の勢力は、必然萎縮し敗滅すべき運命を抱いて居るからである。此の四つの勢力は、それ〲の條件の下に、相互或は結合し、或は抗爭すべき關係に置かれて居る。

思ふに、大正の初年政治界の中心問題とせられた處の憲政擁護の運動は、封建的勢力に對する資本主義的勢力の勃興の運動であつたが、第四のプロレタリア的勢力は資本主義的勢力と結合して働いた。尤も、此の結合は封建的勢力がプロレタリア階級の正面の敵であると考へた錯誤に基いたものではあつたが、又當時に於けるプロレタリアの勢力は、何等の政治的組織を有して居なかつた故に、單なる群集としてのみ動くの外はなかつたのである。

普通選擧促進の運動は、右に云ふ第三の勢力が勃興せんとする運動であるが、第四の勢力は、それと結ばんとするの傾向を多分に含んで居る。所謂議會の新進分子の對民衆宣傳は、此の結合を呼び起さんとするものに他ならぬ。

是等の、離合はプロレタリアが他の諸勢力に利用されたとも見るを得るが、同時にプロレタリアが是等の機會に其の勢力を自覺し發展せしめる事も見逃してはならぬ。

如上の見解は、プロレタリアの今後の資本主義的勢力に對する鬪爭に於て、他の何等かの勢力と結び得る可能性を思はしむるものである。

プロレタリア階級の普通選擧運動は、上述の如く小資本家的勢力と結合するものであるが、それと同樣に、封建的勢力とも亦結合し得べき機會と方法とを考へ得ない事はないであらう。

封建的勢力の支配的地歩は、資本主義勢力の勃興に依つて、一歩一歩奪はれつゝある。此の苦境を脫却し得る唯一の途は、資本主義的勢力を擊破する事であるが、それはプロレタリアと結ぶ事以外絶對に不可能である。こゝに、この二つの勢力は結合すべき根據を有して居る。

その機會方法等に就ての論述は、今こゝに試みるの暇がない。併しながら、私等は日本の現在に於ける此の勢力が尚ほ甚だ有力なるものであつて、隨てそれとの結合は資本主義の擊滅を目標とする革命行程を促進する上に充分有效なるべき事及び、其の事は必ずしも社會主義革命の原理に膠着すべきものでないことを提言するに躊躇しないものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

巨大なる先生！

六年間默々として事實を指し示し世界を教えて來た勞農露西亞

一

『レーニンは獨探であります。今や我が隣邦は、獨探が勞働者を煽動して國家を破壞して了つたと言ふ悲しい狀態に陷つて居ります』

之ば、大正七年頃、寺内内閣の大藏大臣勝田某が、大阪の銀行家大會か何かの席上で、得々として斷言した公開演說の一節である。

當時の日本では、革命と獨探とを混同した世迷ひ言も餘り不思議でなかつた。新しいロシアと言ふもの、勞働者と農民との國家と言ふもの、隨つて社會主義の實現した社會と言ふものを、その程度にしか理解し得ない人が、實は尠くなかつたのである。社會主義そのものに對する曲評、中傷の材料として、露西亞の現狀を見ろと言ふ論法さえ行はれて居た。

二

そんな事には一切構はない顏付きで、勞農露西亞は大股に歩いて來た。恰かもガキの群がからかつて騷ぐ中を、それ等は尻目にもかけずにドシン〳〵步いて行く大男のやうな姿である。

彼は先づ××××を一擊の下に息の根を止めて了つた。無線電信一つの外交で、歐洲資本主義國との高利貸的な國際關係を蹂躪した。日本、英國、佛蘭西などの、資本家や資本家政府が、三百代言のやうな詭辯の下に、スリのやうな狡猾さ强盜のやうな圖太さで押し掛けて來た侵入を、片つ端から叩き付けた。それ等に腰を押して貰つた、デニキン、ユデニツク、コルチヤツク、セメヨフ等々の賣國奴ども が蠢動する奴を、それからそれへと片付けた。大饑饉と言ふ、自然の壓迫に遭遇したが、どうやらそれも切り拔けた。

三

かくして彼は、勞農國家なるもの、、社會主義社會なるもの、、あるがまゝの事實を見せ付けて來た。事實に依つて與えられた說明の前に、一切の陰險な批評が沈默した。世界は、勞農ロシアの實質と實力とを認めざるを得なくなつた。かくして、默々として事實を指示して來た露西亞は、虛僞を振りかざした一切の僥否を征服したのである。

勞農露西亞の肯定は、理論上、社會主義そのものゝ肯定である。世界のプロレタリア階級は、それに依つて如何に多くの希望と自信とを與えられたか。又、世界の資本家階級は、それに依つて如何に濃厚な暗影が運命の前途に投げられた事を知つたか。

四

それにしても、六年間默々として事實を指し示して來た勞農露西亞よ、彼は人類の歷史が嘗て生み出した最も巨大なる敎育者でなければならぬ。

巨大なる先生！我等は此の名に於ても勞農露西亞を讚美する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働運動と小作運動は背馳せざるか

質問

一、農村に於ける小作人の運動と都會に於ける賃銀勞働者の運動とは双方が經濟上の直接の要求に立脚して居る間は、即ち小作人は小作料の輕減を要求し、賃銀勞働者は賃銀の增加を要求する間は、相互衝突すべき必然性を含んで居るではなかろうか。

二、若しそうとすれば、此の事が全無產階級の革命的前進に及ぼす影響は何であらう。

三、又此の事より見て、運動の內容には如何なる分子を加ふる事が必要であらうか。

勞働運動と農民運動

堺利彦

一

民衆運動を大別すると、都會に於ける勞働運動と、地方に於ける農民運動との二つになる。其の二つの運動には色々違つた點がある。

勞働運動はもう大ぶん古い運動だが、農民運動はまだ昨今の運動である。從つて勞働運動には大體ハッキリした目的が定まつてゐるが、農民運動はまだ混沌とした形である。

勞働者は資本家に搾取され、小作農民は地主に搾取されてゐると云へば、同じ被搾取の境遇に相違ないが、其の搾取され方に相違がある。そこで勞働者は、集中された資本を自分等の手に取つて、多數協同の力で自らそれを運用しようと云ふのだが、小作農民は只だ地主に取られるものを取られまいとするだけである。小作は地主に搾取されるばかりでなく、別に色々な筋道で資本家からも搾取されてゐるのだが、その點に對してはまだ幾許も彼等の目が開けてゐない。斯くて勞働者は資本家に對する眼前の反抗ばかりでなく、更に遠い將來を望んで賃金制度の全廢を理想としてゐるが、農民にはまだそれだけの目的が立つてゐない。

二

凡そ文明國と云へば皆な工業國である。農業國から工業國になるのが、文明の進步になつてゐる。だから今日の文明國では、都會の工業が國家經濟の中心になつてゐる。農業は只それの附屬である。若しくは舊時代の遺物である。そして其の都會の工業は資本家に依つて所有され經營されてゐる。それが即ち資本制度である。そこで此の資本制度が一轉して新らしい共有制度になるのは、どうしても都會の工業から始まるより外はない。從つて資本制度を變革する中心の力は、勞働者に在ると云ふ事になる。勞働者は資本の發達と共に發達して、自然に其の數を增し、其の團結を作り、工業の實際的仕事に習つてゐるのだから、彼等が資本家に代つて其の經營を引繼ぎさへすればそれで變革が出來るわけである。そこに勞働者の歷史的使命がある。勞働者は歷史の發達する過程上に於いて、自然に、必然に、そういふ使命を負はされてゐるのである。だから社會進步の變革運動に於いて、彼等が其の急先鋒となるのは當り前である。彼等の間に賃金制度全廢の理想が生じたのは全くそれが爲である。

然し、勞働者が社會の變革を成就するには、決して獨力では出來ない。是非とも地方に於ける多數農民の援助を得なければならない。先鋒だけで戰爭に勝てるものではない。先陣が如何に勇敢でも、後陣が續かなければ駄目だ。第一、數の上から考へて見ても、農民は勞働者の數倍もしくは數十倍である。都會は國家の頭腦であるに相違ないが、地方の胴體が動かなくては頭腦の働らきが出來ない。農民に助けられないでは都會の勞働者に仕事の出來ない事は分りきつてゐる。

然るに小作運動はまだ直接の眼前の利害ばかり考へて、遠大な理想も目的もない、混沌たる狀態である。そこで都會の勞働運動は有らゆる方法を以て農民運動を助け、彼等を導いて遠大の理想と目的とを持たせ、そして互ひに提携し結合する事を計らねばならぬ。勿論、眼前に於ける運動はそれぞれ違つてゐる。勞働者が直接に農民運動を助ける方法はないかも知れない。けれども勞働者が農民に理想を吹き込み、資本制度全體の目的を敎へる事は出來る。小作農民が地主ばかりを相手にせず、此の社會全體をどうにかしないでは、（即ち資本制度の全體を變革しないでは）、結局自分等の立つ瀨がないといふ事が次第に分つて來さへすれば、彼等は必ず都會の勞働者と提携するに極まつてゐる。勞働者と農民、その二つの力の結合した時、初めて社會の變革が行はれる。

三

勞働者は自分で自分を解放すべきだと云ふ。それは其の通りである。けれども、自分で自分を解放するには、諸種の勢力を利用せねばならぬ。汝の敵を見よ。資本家は單純なる資本家として立つてはゐない。彼等の背後には種々雜多なる權力と勢力とが悉く資本家を擁護してゐる。だから勞働者が資本家にブッつかる時、それは即ちそれらの諸權力、それらの諸勢力とブッつかる事になる。だから勞資の經濟戰は即ち政治戰になる、總ての階級鬪爭が政治鬪爭になると云ふのはそこの事だ。斯くて勞働運動が必然的に政治運動になる。同時に農民運動も亦た政治運動にならざるを得ない。小作農民は地主と戰つたばかりで自己の解放は出來ない。よしんば彼等が悉く自作農になつた所で、それで安樂だといふわけではない。彼等は是非とも其以上の要求をせねばならぬ事になる。そこに彼等の理想が生じ、目的が生じて來る。彼等が小作米について地主と戰ふ以外、（前に云つた樣に）此資本制度の社會全體をどうにかしようと考へる事になれば、彼等の運動が即ち政治運動になる。そこで勞働者と農民とが提携聯結して一つの大政治運動をやる事になる。單純なる經濟運動では、勞働者と農民とは別々の働らきをしてゐるが、それが一たび政治運動となれば、兩者は直ちに同一の理想、同一の目的を以て活動する事が出來る。勞働者と農民、その二つの力の結合した時、初めて社會の變革が行はれる。

但しまだ外の要素もある。自作農、小商人、月給取、智識階級など、諸種の中流階級がある。彼等の一部分は云ふまでもなく資本階級の手先であるが、他の一部分は勞働民衆の陣營に投ずべきものである。諸種の社會運動、青年運動などが主としてそれらの間から生れて來る。勞働者と農民との政治運動は、此の一要素を加へて更に其の力を增大する。尙、中流階級の大部分がどちらつかずの曖昧黨である事、從つてそれを反動勢力の中に追ひこまないだけの中和策が必要である事など、注意すべき點もあるが、それは暫く別問題として置く。

□ 涌島義博氏

一、双方の要求は資本主義の分裂作用であつて、衝突といふよりも寧ろ地主と資本家をブルヂョア階級意識に、小作人と賃銀勞働者をプロレタリヤ階級意識に結合し眼醒めしむる契機ではなからうか。

二、從つてこの要求が強くなればなるほど、双方は無產階級運動といふ明確なものを摑んで來よう。

三、しかも、それがためには都會と地方との運動を十二分に聯絡せしめる機關を設置して貰ひたい。例へば双方經濟上の利害を越えて結局被搾取階級であることを知るために。

□ 鈴木茂三郎氏

小作人と都會勞働者の運動が今日の狀態で進む內は御說の樣に其必然性が含まれて居る。然し吾等都會勞働者が考察した點で農業運動者の心理など知り得ない。唯都會勞働者たる吾々の運動は工場委員制度や其他の消極的の運動では眞に得る處が無い事を知つた。都會勞働者は共同目標として、社會制度の變革を望む樣になつた。其れには政治革命を必要として進みつゝある。然し吾々が力強く運動を進める上に於て、益々必要を痛感する事は農業勞働者との提携である。利害の相反する兩者の提携は甚だ困難の樣にあるが、相互に一步進みて農業勞働者は土地の奪還を意識し都會勞働者は生產機關の奪還を意識し賃銀制度を打破る爲にする運動とならなければならない。吾等は遂に（全勞働總同盟）とか（勞農委員會）とか實質的に各異れる生產者の代表か又委員が評議する機關の組織を爲し參

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

要と信ずる。

相互に奪はれた物を奪還する爲にする運動ですからね。

□ 小泉信三氏

御尋ねの主旨充分了解して居らぬかも知れませんが食物の生産者たる小作人と其消費者たる都會勞働者との利害が相衝突する事なきやとの意味ならばこれは相衝突するものと思ひます、此點に於ては先年高島氏が電車の車掌運轉手の利害と乗客たる市民の利害に關して論じたるが如き問題存在す故に小作人の要求に對する食物消費者の對抗機關の必要あり此兩機關有力ならば間にはさまる地主の利益は削減せらる道理なり。

□ 柴田富太郎氏

一、お訪ねの如く衝突すべき必然性を含んでも居る。

二、相互間に、分岐する恐あり。

理由、工場勞働者は消費者として苦しみ小作人は生産者として苦しむが故なりこゝを充分考へさす必要あり。

三、階級意識＝階級爭闘に關する事を充分知り生産者と消費者の兩者の立場を充分知り同時に運動を起す樣にするにある兩者の運動に理解ある分子が必要である。

□ 宮地嘉六氏

一、最早今日の小作人の運動は根本の目的に進まねばならぬ。それは姑息なる小作料引下げではない。自作農たらむとする要求ではない。自己の手を以て耕す者の支配權獲得であらねばならぬ。農業の社會化であらねばならぬ。その意味に於て都市勞働者と共同の急進的運動の結合を要す。今や農業の資本主義化は工業のそれと同一の結果を來さうとして居るではないか。近來鐵工場に發動機の備用の多いのもそれだ。

□ 永井柳太郎氏

一、現在の經濟組織に於ては、それが必然性を含んで居るに相違ない。

二、多くの場合に於てそれが無産階級對有産階級の階級鬪爭となる危險性を有する。

三、共存主義に基く經濟組織の改革を目的とする事。

□ 吉川世民氏

近來の痛快の事一つも有りません。癪にさわる事は大學のニキビ野郎が、田舍の百姓の血を吸ふて肥へたてる餓鬼共が何だい急に貧民窟視察とは―舞踏や淫賣買やゴケさん欺ましに、あき果て、活動や芝居にもあきはてし、變つた芝居見物の積りだらう、此奴等も癪にさわるが又奴等に對して所謂貧民と目された者共が、糞でもぶつかけてやらんのが癪にさわる。

□ 米田庄太郎氏

御提出の問題に就ては小生はまだ實際に就て詳しく研究致して居ませぬから確な意見は乍遺憾申上げかねます。

今日の狀態に於ては同じく無産階級の中に數へられる諸階級にも種々利害を異にする場合が少なくあるまいと思はれますから終局の目的に於て一致を求めるに非らずば到底一致は見出されまいかと考へます。

□ 山川均氏

一、必然に相反するものとは思ひません。

二、農村全體の利害を取つて都會の利害に對立させるから農民の利害が都會の勞働者の利害と相反するかの如く見へる小作人の利害を取つて地主の利害に對立せしめれば都會の勞働者の利害と一致す

□ 高津正道氏

一、小作人と都市勞働者とは、被搾取階級である點では、共通した利害關係を持つてゐるが、御質問の如く、小作人が單に小作料輕減の運動を行ひ都市勞働者が單に賃銀値上の運動を行ふならば、兩者は衝突すべき運命を持つてゐる。

二、小作人運動と、都市勞働者運動とが、理解、提携を欠ぐ場合には、小作人運動が、地主階級の政黨（中央農事協會や農民聯盟は將來の農民黨の前驅と見られる）の運動に釣り込まれ、無産階級運動の本質を失ふが如き結果を來す惧れがある。即ち小作人階級が、都會と農村との利害の衝突を高調する地主黨の宣傳に迷はされ、地主階級に對する反抗の精神と氣力とを、都會に對する反抗に向ける惧れがある。これは、惡影響の最も大なるものである。

三、この兩運動の離反を緩和し、又消滅させるには、小作人と都市勞働者との共通利益のための鬪爭機關として、日本勞農黨とも名くべき無産階級の政黨を組織する必要がある。兩者は、この機關を通じて、相互に理解し、聯絡し、雙方の經濟上の當面の要求を貫徹すると共に無産階級の最後の解放に向つて進まねばならぬ。この政黨の組織は、前述の弊害を除くために最も有力であらう。

但し、政黨を持たざる今日としては、既成の小作人組合と都市勞働組合とに屬する、階級意識に目覺めたる分子が、その組合をして、雙方の理解、提携を要求する旨の宣言、又は決議を發表させるやうに努力すべきである。手は先づ、これに向つて下されねばならない。

□ 辻井民之助氏

一、理論上必ずそうあるべきであり亦現に實際上も當然そうあるだらうと考へます。

二、然しながら、今日の日本に於ける勞働運動にしろ、小作運動にしろ、表面の形式こそは『經濟上の直接の要求に立脚して居る』けれども其根本的動機となれるものは、意識的、無産意識的な、現社會に對する反逆心に根ざして居ると思ひます。故に階級の相互間の利害の衝突などは全無産階級運動の上に何等の惡影響をも與へて居らないと思はれます

三、けれ共、今後相方の運動が益々進むにつれて或は此の相互の衝突も亦漸次大きくなり、終にはそれが全無産階級の運動の上に大なる影響を及ぼすことなきやを保せません。されば今後のために備ふべく、相互の運動の中に、一層強く階級的自覺と○○的精神の發達を圖られば ならぬ。殊に勞働者と小作人の間の一層密接な連絡と提携こそ、尤も望ましいことだと思ひます。現に私等は如上の方針の下に進んで居ります。

□ 滿川龜太郎氏

一、あります。それは地球と彗星とが衝突する恐れあるよりも、もつと確實性を帶びた問題です。

二、然かし今日は最早都鄙が聲價を爭つてゐるやうな時でもありますまい。當面の方策としては、農民運動の中から眞のリーダーが出て來て都會方面としつかりした聯絡を取り、互讓諒解の大衆的精神を以て進むより外に道がありますまい。

□ 河上肇氏

御尋ねの問題の意味がその方面に關する私の智識が乏いために、十分に了解が出來ません。要するに私は不案内でお答ができないのです。

□ 河合正治氏

都會の勞働者が資本家に向つて賃銀の增加を要求する運動も、小作人が地主に向つて小作料の輕減を要求する運動も双方の要求が同一である以上即ちブルヂヨアの社會組織を破壞する爲めに共同戰線に立つた運動である以上、衝突の起る筈は無いと思はれます。

運動の内容へ加へる分子にしてはマヤカシ者でない以上AでもBでも組合主義者でも構はないと思ふ。勞働者や小作人はそのうちから自分等に眞に必要な智識と戰術とを自ら選擇し吸收して彼等と戰ふであらうから。

□ 平澤計七氏

一、御言葉通りだと思ひます。

二、そこで都會勞働者と田園勞働者の衝突を避け得ると信じます。

三、勞働運動が自己主張運動のみでなく、萬人幸福の理想を通しての自己主張運動である事が必要であらうと思ひます

□ 片桐市藏氏

農村に於ける小作人運動と、都會に於ける賃銀勞働者の運動とに、『現在の如き賃金增加の要求や小作料輕減要求中は』そこに何等の衝突すべき必然性はないと思ふ。

成程農業に於ける生産組織と、都會工業に於ける生産組織との間には、産業の歴史的には、多少時代的隔りがあるから、そこには多分異つた、運動手段が、生ずるかも知れないが、しかし双方の運動手段が異つても、双互に慾求する目的が同一であつたならば、そこには、すこしの矛盾も衝突も來たさないと思ふ。

隨て、無産者運動に、如何なる分子を加へるが必要であるか、ないかと云ふ如なことは、私には考へられませんれ、

只私は思ふ無産者運動と言へば、單なる工場の賃銀勞働者の運動ばかりでなく眞の無産者運動は賃銀勞働者は言ふまでもなく、農村の小作人も各所の腰辨先生も、商家の番頭も丁稚も女給もおさんどんも凡て、被搾取者たる階級を、打つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一丸としたる、××的大運動であらればならぬと思ふ。
然て、東國で梅桃と櫻が一度に咲く、時節が來れば、歴史の僅かの道程位、一吟に突破する。
しかし、それを導くには、どうすればよいかといふ問題は、其に見解が異るかも知れませんが…………。
よし異つても、それによつて、大した不滿も衝突も起るものでないと思ふ。

□ 猪俣津南雄氏

葉書で書きつくせる範圍で、僕の考を大づかみに申しますと、二つの運動が直接經濟上の要求に立脚して居り、且つそれ以上に出ない場合には、相互相背馳し衝突する恐れはあると思ひます。しかし直接經濟上の要求に立脚した運動が、大きく激しくさへなれば、何うしても其れ以上に出ない譯には行かなくなり、そうなるに從て二つの運動の一致點が不一致點を壓倒して來ると思ひます。大きく且つ激しくなることが要件だと思ふのであります。

□ 麻生久氏

勞働運動も小作運動も双方ともになくてはならぬものですからやつてゐる間に自然に解決がついて行くと思ひます。だが最初一寸の間は利害の衝突はありませうが…………

□ 河田嗣郎氏

若し勞働問題が單純なる賃金問題であるならば米價の關係に於て農業勞働者の運動と都會の賃金勞働者の運動とは多少撞着するやうなこともあり得るであらうが勞働問題が今少しく深い意味を持てゐるもので、人格的獨立や勞働自治制の確設やを目的とするものであるならば、兩者の互に衝突する筈はない。兩者は相提携して進み行き得るものと信ずる。

□ 今吉一雄氏

一、衝突すべき必然性はないと信じて居ります。
但し此の勞働者運動は都會と田園と並び行はれる事が必要であると信じます、左もなくば悲しむ可き不幸事が生れます
二、然し無產階級全體解放の目的はこれら兩勞働運動が經濟上の直接要求にのみ立脚してゐる間は絶對に達せられないと信じて居ります。
三、故に現今の勞働運動は、私達は都會に於ては革命的勞働組合運動を、田園に於ては革命的農民運動を行ふ事が必要事であると信じます。が故に今後は純組合運動の中に『社會主義運動』と言ふ分子を加ふる事が大切であると信じます。

□ 北澤新次郎氏

一、私は農村に於ける勞働問題に就て餘りに存じませんが、只今の處では農村勞働者の運動と都會の工業勞働者の其れとの間に衝突すべき點を見出しませんが或は私の不明かも知れません。要は今日の如き不勞所得制度の打破にあると思ひます。
其れで農村勞働者も都會勞働者も打つて一丸になつて團結の力に依つて進展するにあると考へて居ます。

□ 伊井敬氏

小作人の運動と都市勞働者の運動とが相互背馳する必然性を含んでゐると云ふ程でもないと思ひますが、兎に角、相方が眞に致命的に目醒めない中は協同策戰は出來ないと思ひます。
單な經濟運動が、全プロレタリヤ階級の革命的前進を齎らすものでないと云ふ事は、小作人運動對都市勞働者運動問題上に謂はれ得るばかりでなく、都市勞働者間のみの謂はゆる組合運動上にも謂はれ得ることゝ思ひます。この缺陷を償ふには、種々な方法によつて、社會には、眞に利害相反するものは二つしかない、それはブルジョアとプロレタリアであつて、その他の凡ゆる小對立は、この大對立の前に消滅させられなければならぬものであることを全階級に意識せしむる事即ち階級意識の自覺を喚起するのが基礎的要件でありますが、その手段としては、全般的——階級的——利益を標榜し得る一の大きな團體の下に全無產階級を呼合することであります。
そう云ふ團體は、名は勞農黨と云はれやうが、勞働黨と呼ばれやうが、兎に角、直接個々の工場或は村落の特殊利害關係の上に立つものではなくて、(そう云ふものも副產的に取扱ふことは出來ますが)全般的階級利害關係の上に立つものでなければならぬ事は謂ふまでもありませぬ。故にそれは、必然的に直接經濟運動でなくて政治運動を目的とする團體となります。それは個々の資本家にぶつかるものでなくて、凡ての資本家を代表する政府にぶつかるものとなります。それは組合でなくて政黨であります。
この團體は、それでありますから自然、謂はゆるレベルの低い合法的のものでなければ、その目的を達せられませぬ。それはプロレタリヤ軍の前衛でなくて、本隊であります。從つてその前進の速度は遲々たるものでありませう。しかし、それが急進的でないからとて、必ずしもそれが戰鬪的でないとは云へますまい。
以上のやうな大きな政治的團體の下に於てなら、小作人の運動も工場勞働者の運動も一致して進めると思ひます。小作人は輜重兵たり工兵たりで、急進的工場勞働者は騎兵たり航空軍たりであります。
私は斯かるプロレタリヤ組織の出現を望みます。

□ 新井紀一氏

小作料の輕減が米價の昻騰を招致する原因と見做しての立論でせうが、米價は、しかく單純なる理由に依つて左右されるものではありますまい、が大體に於てそれが米價昻騰の原因と見ることが出來ますから、それは賃銀勞働者の賃銀增加が物價の昻騰を招致する原因となる如く、兩者の運動は每々反撥する原因となります。隨つて全體の無產階級運動は成立し得ない如く見へます。が斯の如き無產階級運動は要するに過渡期のものであつて、終局的のものでなく、隨つて吾々はその内容に何等の分子を加はうる必要を見ません。

□ 福田德三氏

御質問の事は、我國の小作運動の眞相を十分、研究した上でなければ何れとも申し上げ兼れます。私共は其研究の材料に乏しい事を殘念に存じて居ます。

□ 吉川守邦氏

現時の社會組織に於ては小作人の小作料の輕減は物價の騰貴を來たし、從つて工場勞働者は賃銀の下落を意味する事に成ります。故に小作人は小作料の輕減に止まらず土地の奪取を目的とし、工場勞働者は賃銀の要求に止まらず工場の××を目的として運動せんければならん。そして土地も工場も總て一切の物を無產階級の手に握ぎつて人民の共有とし、それからは農業と工業とは車の兩輪の如く相騈進して行ける者、行くべき者と思ひます。
農業と工場とは分業でなく合業で行くべき者と思ひます。ソコで運動の內容は農業勞働組合と工場勞働組合と相提携して運動すべき者と思ひます。

□ 岡千代彦氏

一、兩者が經濟上の要求をせねばならぬと云ふ自覺があれば、衝突はない、寧ろ合致する可能性があると思ひます。

勞働者と小作人との對話

都會の勞働者『僕は賃銀の增加を要求する。それは僕等の生活を向上する爲めなんだ。』
田舍の小作人『結構だろう。が併し、君等の賃銀增加はそれだけ資本家の利潤を減らす。それを補ふ爲めに奴等はキット商品の値段を吊り上げるだろう。そうなると僕等が高いものを買はされる事となる。極端に言へば、君等の增賃は僕等の懷から出る譯なんだ…………』
勞『イヤ待つてくれ給え、そう言はれちや僕等が困る……』
小『困つたつてそれが本當ぢやないか。まあ奢侈品は別だが綿絲だの機械だの、化學工業品だの、皆んな直接間接僕等が需用者だよ、それに英國なんかと違つて日本の資本家は殖民地を持つて居ない。製品は大部分國内に賣り付けなければならないんだ。所が國内の消費者の七分までは僕等百姓だ。矢つ張り增賃の尻ぬぐいは僕等なんだ』
勞『ヨシ分つた。全くそれが事實だとすれば、隱したつて仕方がない、お互にその通りハッキリ考へやう。と言つて、僕等は何時までも貧乏で居る事は出來ない。そこで結局君等も、小作料をウント値切つてくれる事だ。それで、懷具合をよくする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二、兩者の運動が即ち全無產階級運動であると云ふ事が云へるのでせう。
三、さうなれば分子などは問題でなからうと思ひます。

□ 安部磯雄氏

私は小作人の運動と賃銀勞働者との運動との間には何等の衝突があらうとは考へません。寧ろ二者の間には共通點があることを自覺する必要があると考へます。即ち二者の終極の目的は獨立人となることです。小作人は自作農となつて自分の土地を耕し勞働者は自ら工場を所有して勞働するといふことです。

□ 室伏高信氏

一、相互に流動關係がある。
二、農民はプロではない。
三、農民問題にはマルクス主義は有將である。アナキアズムが行はれる、

□ 藤井眞澄氏

一、小作料を輕減すれば地主は米價を高くする、そこで賃銀勞働者は困る、賃銀が增加すれば資本家は物價を高くする。そこで小作人は困る。小作人と賃銀勞働者の利害は衝突せざるを得ぬのだ。僕は文筆賃銀勞働者だ、小作人が憎くて仕方がない。
二、そこで小作人と賃銀勞働者は、仇敵となつてウンと喧嘩をする。それでいゝのだ。どつちかが亡びるまで喧嘩をするがいゝのだ。先づ小作人が亡びて了ふとする、すると地主が亡びる。途に米を作る者がなくなる。腹がへる、こゝまで來りや、いくら馬鹿な日本人でも眼がさめるに決まつてゐる。いくらやくざな日本の無產階級運動だつて、ちつたあ氣の利いたものにならうぢやないか。小作人と賃銀勞働者と大ケンカをやる以外に、無產階級運動にいゝ影響を及ぼすものはないのだ。
三、何等の分子を加ふる必要はない。それは却つてじやまだ。

□ 大川周明氏

『直接經濟上の要求』にのみ『立脚』して居ては啻に小作人と賃金勞働者とのみならず小作人同志又は賃金勞働者同志もまた『相互背馳し衝突すべき必然性』を含んで居ること火を睹るよりも瞭らかです。故に『全プロレタリヤの革命的前進』は單なる『經濟上』の立場以外に一層廣くして深き要求に據つて立たねばなりません。

□ 西尾末廣氏

御尋ねの如く抽象的假定を前提とするならば双方の矛盾は有り得る。從つて此れを避ける爲めには『社會組織――の改革』と云ふ窮極の理想を預想し、それに依つて調製しなければならぬ。
又實行方法としては、ロシアのボルセビイキの如きものでは無く、全國の各勞働組合を基礎とせる『政治部?』とでも云ふべきものを組織し、ブルジョアーヂーよりの政權の讓り受け、及び其後の經營の任に當らしめる。
然し斯んな問題を云々するは、ダダない事だ。農民は自己の眼前の利益を獲得する爲めに、地主をウンと虐めるがいゝ。都會の勞働者は賃銀の値上げ、勞働時間の短縮等を農民にも、誰れにも遠慮せずにドシドシ追求すればよい。勞働者は日常の經驗に依つて『自分は何をなすべきか』を知るであらう。又兩方からいじめられた有產者階級は斷末魔の死者狂ひをするであらう。其處から現代資本主義社會より勞働者本位の新社會への悲劇の最後の幕が開かれるであらう。

□ 西雅雄氏

一、事實上に於いて日本の勞働者の要求は『經濟上の直接の要求』を踏み出してゐますから、御質問の假定は意味がないと思ひます。唯小作人運動の方は、今のところ主として經濟上の直接の要求のみを叫んでゐるやうですが、これも遠からず更に一歩を踏み出すことゝ存じます。私は運動上の兄貴分たる都會の勞働者が、一日も速く全國的團結を固めて、弟分たる小作人に模範を示し、且つ之と提携して、全勞働階級解放の爲に闘はんことを望むものであります。

□ 布施辰治氏

農村に於ける小作人の運動と、都會に於ける賃銀勞働者の運動とは、共に其の無產者の運動たる點に於て、相衝突すべき筈のものでは無いと信んじて居ります。
然るに、それが御問ひ合せに示された如く、小作人運動が、小作料輕減の要求を主とし、賃銀勞働者が賃銀の增加を要求する關係に於て、利害相互の衝突を見る事に爲つて居るのは、眞の無產者運動に徹底しないからであります。
私は、先年某地方で其の事を論じて、「農村勞働者の報酬を金給として、都會勞働者の報酬を物給とし、所謂農村不景氣の利害相反を衝突せしむる樣にして、居る資本家の組織は、極めて巧みなものである事に覺る所が無ければならない。
農村勞働者の報酬も、都會勞働者の報酬も、共に之を物給とするか、都會勞働者の報酬も、農村勞働者の報酬も又、共に之を金給とすれば、農村都會兩勞働者の利害は一致するのであつて、其處に眞の無產勞働運動が起るであらう。私共は、先づ此點に運動の第一手を染めなければ爲らない云々」
而して、近來の農民運動が裁判沙汰に及ぶ時、總てのものを金に換算する爭議解決の風を導きつゝある人のある事を知つて貰ひ度い。恐らくは、斯ふした見地、斯ふした方法から進めらるゝ、都會農村の勞働運動が一つの無產者運動に合致する事を信じて疑はない。又、私は合致させずには置かない事に獻身する。

□ 鈴木文治氏

一、第一問に對しては御質問の通りと信じます。小作人運動が小作料輕減運動に止まる限り都會と農村との爭は必然に起ると思ひます。又地主階級が「農民」といふ汎稱の下に小作人の反抗心を都會に向けつゝある現狀であります。
二、故に農村運動に於ても、運動の最終目的が單に眼前の經濟的要求以外、更に奧深き所にあることを知らしむる必要があると思ひます。

□ 平林初之輔氏

小作人と都市勞働者との利害が衝突する主な方面は双方が生產者としてではなくて生產者對消費者としての關係に於てだと思ひます。しかもこの衝突は地主對資本家の對立、衝突の餘波として生ずるものですから、小作人と都市勞働者とが地主と資本家とに對抗するのは共通の敵にあたることになります。地主と資本家とは一方から他方へ轉がへもできるし一人で兼ねることもできます、小作人と勞働者ともそうです。この關係が理屈で理解することが出來なくとも經濟關係の切迫につれて自然事實で理解出來るやうになります。それまでは互に生產者として直接の搾取者にあたつてゆけば衝突は起らんと思ひます。

□ 野田律太氏

一、搾取されて居る者が自覺して要求する事が小作料輕減であらうと賃銀增加の形にならうと相互衝突すべき理由は無いと思ひます。
二、從て工場勞働者は小作爭議を援助し小作人は工場爭議を應援すべく共同戰線すべきです。
三、大勞働組合主義のみでは駄目であつて勇敢な闘士が必要であり又知識階級者も大切だと信じます。

の他はない」

小『まあそれだなあ。所がそうすると、今度は君等の喰ふ米が高くなるぜ、高くなつちや、切角賃銀は上つても生活費に消えて了つて、結局五分五分ぢやないか』

勞『それもそうだ。だが併し君等だつて同じ事だよ。切角小作米を値切つたつても、都會から賣り込む品がそれだけ高くなれば殘りつこはないだろう』

小『それぢやお互に前途は暗だつて言ふ事になるのかなあ、それからお互に、同じ貧乏人で同じ身の上だが、勞働者も小作人も一つになつて、戰ふと言ふ事は出來ないのかなあ』

勞『さ、そこだよ、お互に僕等は賃銀の運動、君等は小作料の運動と言ふやうに、てんでに自分の眼の前の利益を追ひかける運動ばかりやつて居ては、それは到底、一緒にはなれない筈だ。たゞ併し、君等は地主に搾られ、僕等は資本家に搾られると言ふのは、つまり今の社會の經濟組織が惡いからなんだ。それは君等もそう考へてらあなあ。此の經濟組織が自分等の敵だと言ふ點ではお互に共通してゐるだろう。そこで、經濟組織を革命する事を考へ、その考へを實行する仕事や運動をやる事となれば、君等も僕等も一緒になれる筈ではないか……。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「進め」と「守れ」

堺利彦

一

　本誌の題名を『進め』と云ふ。進む事は我々の意氣であり、精神であり、任務であり、使命である。

　社會は絶えず進歩してゐる。其の進歩に貢獻する爲には、我々は常に『進め！　進め！』の進軍喇叭を吹奏せねばならぬ。けれども、社會の進歩は決して單純な進歩でない。矛盾、撞着、衝突、鬪爭の中に於いて、初めて進歩が行はれてゐる。そこで社會員の幾分は必ず常に進歩阻止の役目を演じてゐる。

　進歩阻止の役目を演ずる者は舊勢力の代表である。新興勢力は其の舊勢力に反抗しつゝ、其の舊勢力と鬪爭しつゝ、常に前進を續けるものである。そうして、舊勢力が一歩々々減退するのに比例して、新勢力は一歩々々其の領域を擴大し、遂に或日舊勢力の根據を顚覆して新勢力の支配を樹立するのである。今や『進め』の同人諸氏が其の新興勢力を代表して、反抗と鬪爭との中に『進め！進め！』と叫び得るの地位に立ち得た事は、大なる光榮であらねばならぬ。

　我々は無產者として斯ういふ社會的任務を帶び、斯ういふ歷史的使命を負うて前進の道に上つてゐる。けれども、進むには一定の方向がなければならぬ。社會進化の大勢から觀測して、是非とも之でなければならぬと見定められた、確定の方向に進む事が肝腎である。所が實際には、大勢の觀測がまち〳〵になつて前進の方向が容易に確定されない。從つて前進者の陣營内に論爭が起り、分裂が生じ、或者は右方に傾いて進み或者は左方に傾いて進み、前進者の諸隊伍が緊密に團結した大組織となる事が出來ない。

　時としては前進者の一部分が前進阻止者に欺瞞されたり、利用されたりする事もある。甚だしきは、前進者の一部が意識的もしくは半意識的に後退して、阻止者の側に加擔する事すらある。更に甚だしきは、純眞な前進者の間に見解の相違からして激烈な鬪爭を起す事すらある。

　そこで我々の前進に於いて最も肝要な事は、方向の確立である。若し方向を誤まれば、折角の前進が却つて退却の用を爲す事になる。現に純眞な前進者を以て自ら任じてゐる人々の中で實際上には、敵の爲に利用され欺瞞されて、前進阻止の爲に少なからぬ貢獻をしてゐる者があるのを見受ける。然らば方向は如何にして確立されるか。

　それは一言にして盡されない。只だ我々は世界の大勢を察し、國内の狀況に鑑みて、社會進化の主潮を見定め、努めて個人的、部分的、一國的の偏見を棄て、殊に眼前の姑息な小政策に囚はれないで、出來るだけ遠大な畫策を立て、眼前に於ける一擧一動も皆な其の遠大な畫策の上に基礎を置き、有らゆる前進勢力の集中統一を計るべきである。之を換言すれば、前進する新興勢力、即ち一般勞働民衆の力を緊密に團結させて、以て社會進化の主潮に應ずる強烈な大組織と爲し、遂に或日、勞働民衆の支配を現出させる事を目標とすべきである。

二

　以上は只だ進むについての考へである。然し實際には、進歩の中に一時的の停滯があり、退歩がある。進歩阻止の勢力が働らいてゐる以上、それが一時的の優勝權威を揮ふ場合が勿論ある。そこで反動時代が現出する。

　之を世界的に見て、ロシヤ革命、ドイツ革命、ハンガリー革命等を經て今日に至るまでの間、前進勢力の勃興時代から阻止勢力の跋扈時代に推移した跡が明瞭に見られる。前進勢力の根據は依然として強大であり、勞農ロシヤは着々として其の新基礎を堅めてゐるに係はらず、歐米諸國に於いて一般的に反動時代を現出してゐる事は爭ひ難き事實である。我が國内に於いても、勞働運動、社會運動の好景氣時代が過ぎて、漸く其の不景氣時代に入つた事は明瞭である。本年は、或は露骨な反動時代を現出しないとも限らない。

　そこで我々は進む事の覺悟を持つと同時に、守る事の覺悟をもして置かねばならぬ。進む事の戰術を講ずると同時に、守る事の戰術をも講じて置かねばならぬ。徒らに進む事を知つて、只だ進め進めと叫び、時として退き守るの必要がある事を忘れた者は、場合に依り、甚だしき醜態を暴露する事になる。

　過去にも苦い經驗のある事だが、戰術を知らぬ人々は、一朝反動時代に遭遇すると、忽ちにして意外の失望、意外の幻滅に陷り易い。其の結果、或者は所謂自暴自棄の暴動に出で、或者は無目的な耽溺の生活に沈み、或者は淺はかにも悔悟改悛の心理狀態を呈し、更に或者は飛んでもない宗教的、高踏的、索然的な態度を以て逃避を試みる事になる。

　然らば能く守るの道は如何。

　これも一言にして盡す事は六かしいが、先づ大勢大局を洞察して、堅く將來の希望を繫ぐ事が肝腎である。希望を持つ者は一時的の現象に迷はない。守る事も亦た進む爲の一戰術である。次の進軍の準備的守勢だと思へば、如何なる枉屈も我慢が出來る。個人的にも團體的にも、場合に依つては猫を冠る必要もあらう、所謂カムフラージュをやる必要もあらう。然しカムフラージュは改悛でもなく、變心でもない。況んや、靜かに守つて力を養ひ、竊かに謀つて時を待つのは、逃避でも何んでもない。覺悟を持ち、戰術を心得た者は、反動時代に處して能く守るの道を知る事が出來る。

　進む事の花やかな仕事ばかりが仕事ではない。廣告的な虛榮的な仕事には害がある。進め進めと叫ぶ時にも、其の聲が味方に達するよりも寧ろ多く敵に聞える場合がある。そういふ進軍喇叭を矢鱈に吹き散らす者は、障礙にブツつかつた時、たやすく退却する者に多い。眞の勇者は靜かに働らく。棄石となり埋草となり緣の下の力持をする覺悟のある者は、如何なる場合に處しても必ず能く效果を收めてゐる。

　これは必ずしも反動時代、不景氣時代ばかりの事ではない。景氣のいゝ得意時代に於いても、本當に落ちついた運動者は、常にそういふ心掛を持つてゐるものである。それでこそ初めて耐久的な一生涯の、命がけの仕事が出來るのである。

三

　社會の進歩には波動がある、潮の滿干がある。一進一退の中に大進歩が成就される。一月の中にも一進一退があり、一年の中にも一進一退があり、更に數年を通じた一進一退がある。然し全體の大進歩に對する希望と確信とを持つ者に在つては、一時的の退歩や停滯は何んでもない。進む中に守る事を知り、守る中に進む事を知れば、我々の運動は常に前進である。そうして最後の滿潮が即ち勞働大衆の支配となるのである。

『進め』の發刊に際し、同人諸君に求められて病中ながら此の短文を草した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

二つの立場から

日本に於ける協同戰線と民族

金若水

長い間監獄にブチ込まれてゐた人々がその在監中に於ける經驗を語るのを聞くと、或る人は、空腹が一番堪へられなかつたと言ひ、或る人は、寒いのが何より苦しかつたと言ひ、或る人は、看守の態度が癪に障つて仕方がなかつたと言ひ、又或る人は、教誨師といふ幽靈を見ることが何よりの苦痛であつたと言ふ。又近頃、臺灣、朝鮮、民國、日本の同志が一緒に會合したりする時に、必らず、日本の壓迫なり、脅迫なりを受けてゐるといふ實談を聞かされる。

然し、僕にはこの場合に、各國の同志の言葉の裡には、如何にも、平素日本の軍閥なり資本家なりを、普通の人間性の所有者と認めてゐた痕跡があるやうに見へて仕方がない。僕の見る所が事實だとすると、これは言ふまでもなく階級意識の不明確を意味する。又、臺灣、朝鮮、民國の同志の談話の背景が、何となく哀調を帶びて、何だか日本の同志に訴へるかに見へ、又日本の同志も、これを無我の同情で聽取するが如く見へることは、僕には甚だ不愉快である。

凡そ人間は、みな同じ生活權を持たねばならない。日本のブルヂョア階級は、何故あんな人間以上の權力を持つてゐるのだらう？ それは、言ふまでもなく、日本の民衆が、彼等ブルヂョア階級の生活を中心としたすべての機關に完全に縛られて、一種の道具化した結果である。即ち無產階級の無智、無力に乘じて、臺灣を○○し、朝鮮を○○し、更に支那を脅迫するものである。

されば、問題はただ、日本の民衆が日本のブルヂョア階級と分離することに歸着するのであつて、一切の哀話は無用である。朝鮮と臺灣では、奪か不奪か、ブルヂョア階級の政府の略奪——無產大衆の革命運動に最高の犧牲を拂はなければならない——は、旣に旣に積んでゐる。

我等は、須らく力を合して、一時も早く、日本の民衆とそのブルヂョア階級との分離を早むべきである。我等に若し共通の道程がありとすれば、これを措いて他にないと思ふ。

亞細亞方面に於ける社會組織の根本的整理は、勿論併行同步すべき運命を持つてゐるが、若しも、その實現上に時間の先後があるとすれば、それは勿論、惡魔の足下に仰向きになつてゐる日本民衆の運動の實現が、一番後れるだらうと僕は思ふ。

この意味に於いて、僕は日本の同志に切望する。暫らくその無我の同情を止めて、決死的努力を以て、ブルヂョア階級に迫らなければならないと。

又日本の思想團體は、殆んど勞働階級に對する宣傳を以て、その運動の全部となし、宣傳のみを以て能事了れりとする風が見へはしないか。これは、革命運動に於ける勞働階級の力を、重大視し過ぎた弊害であると思ふ。

經濟的革命運動に於いて、勞働階級が重きをなすことは言ふを待たない。然しながら、勞働階級のみの運動では、決して社會革命が成就するものではない。この事實は、最近の露西亞革命に於いて、その役目を盡した人々の職業別を一見すれば明かである。露西亞革命は、やはり歐羅巴の新思想の洗禮を受けた人々がその大部分を實行したではないか。要するに、活字の利用に餘り重きを置かず、最後の決心を定めて、階級闘爭の實戰に總動員することを希望せざるを得ない。

無產者運動と水平社

水平社同人　高橋貞樹

一

徳川時代は日本の社會史上に於て最も陰慘な暗い時代であつた　嚴格な階級制度が死手の如く全社會を緊縛して居た。維新の革命と共に、この封建社會を倒して、新しい近代國家の發端をなしたが、『大名』は其の儘、所領地に於ける大地主となつた。そして資本主義が未だ芽生えの段階にある當時の經濟的實權は、實に、この種の大地主の握る所であつた。從つて、維新後の社會は、可成り復古的な、退嬰的なものであつた。

かゝる復古的、退嬰的なる維新革命は、屢々民衆に對して無理解であつた。殊に特殊部落民に對してそうであつた。紀州藩が明治の初めに法令を出して『穢多の共近來風儀宜しからず、ふらちの段』の故を以て取締を嚴にしたるが如き、社會の部落民に對する態度は封建時代と異らなかつた。

明治四年八月、有名なる解放令が發布された。吾々の父親はこれに狂喜し、お有難いといふ叫びが全國に滿ち滿ちた。しかし哀しくも、一片の法令は決して古來から纏絡した歷史的傳統を打破することが出來なかつた。エタの名は依然として存在した。新平民の名に於て、特殊部落の名に於て、細民部落、密集部落、後進部落、少數同胞の名に於て、依然として侮蔑と迫害との鬼手は止まなかつた。

不完全ながらも、一般民衆は近代のブルヂョア社會の利益を享樂することが出來た。が部落民に對して此等の恩惠は堅く塞ざゝれた。資本主義も部落民には經濟的にも其の門戶を解放しなかつたと斷言し得る。

二

特殊部落は一に細民部落の名を以て呼ばれる。それ程、部落民は貧困にさいなまれて居る。記錄によれば、部落民は初めから貧乏ではなく、徳川時代の初期にあつては、寧ろ富裕な者が多かつたが、部落の人口增殖が激しいのとこれに因を發する疆界範圍の縮少とは、いよく部落を貧窮の淵に沈め、部落の無產階級化は時代を經ると共に甚しくなり、明治時代に入つて、益々激しくなつた。屢々部落攻擊の材料となつた不衞生とトラホームとはこの貧困が齎したものである。

部落民の生產方法が現代的でないとも、無產階級化の傾向を强めた。部落民には眞宗に對する信仰が篤い。零細な金をも集めて東西本願寺に獻つたことも、部落民を貧窮の地位におとす一原因である。

かくて特殊部落民は今日に於ては、經濟的には完全に無產階級の列に入り來つたのである。

三

吾が特殊部落民は、其の發生の初めから被搾取階級として存在して來た。部落民の起源は古代の奴隷制度である。部落民の歷史は弱者の歷史である。强權の下に迫害されつゝ、奴隷的地位に虐げられた者の歷史である。

吾等の心理的發達は極めて暗い。永い間、部落民は卑屈にされて來た。忍從とあきらめとが吾等に與へられた。たゞ一つの心理的方向であつた。あらゆる虐待と侮蔑との下に吾々は泣いて來た。この泣くに堪えざる侮辱は先づ個人的の反逆として表はれて來た。大兇賊として知られた五寸釘寅吉は其の代表的なものである。彼が殺人二十餘人、强盜三百二十餘回の犯行を敢てするに至つた動機は特殊部落の生活を逃脫せんとしたのに初まつて居る。かくて苦しい侮蔑の鞭を受けて來た、社會群が、其のあきらめ的態度から、反逆と變るのは必然である。このあきらめの態度は甘んじて居る間は同情的差別撤廢運動、改善運動も受け入られたであらう。しかしそれが個人的反逆と變り、更に集團的反逆となるに至つて自發的解放運動が起り來るのは當然である。

政治的社會的に迫害された社會群が經濟的に優勝者の地位を克ち得ることは珍しくないが、特殊部落民は經濟的にも優勝することが出來なかつた。全く男らしい產業的殉教者であつたと誇り得ると思ふ。部落民は完全なる無產階級の一群である。

かくて起り來つた水平運動は無產階級である部落民の運動である。唯だ古來の傳統は一千年來の因習は、部落民の心理を、都市勞働者、農村小作民のそれと著しく異ならしめて居る。部落民と其の他の無產階級との間には、被搾取階級としての連帶感情が極めて少ないであらう。しかし乍ら、吾等は答へ得る。先年の米騷動に於いて部落民が如何なる態度と行動とを取つたかと思ふならば、吾等の運動が如何に進み行くかを知り得るであらう。吾等は全ての被搾取階級が水平線上に昇ることを希求する。そして全ての被搾取階級が解放さるゝ時、吾等も亦解放されるであらう。

吾等は流血の闘爭を以て、自らの生命を賭して最後の一點に突進する。最後の一點が何んであるかを、如何にして來り如何にして達すべきかを吾は知つて居る。水平社は恐らくこの方向に向つて進み行くであらう。（一、六）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

白色の妖怪に對抗せよ

—『過激社會運動取締法案』が蘇生せんとす—

山川均

1 白色のテロリズム

伊太利ではムツソリニがファスチスを率ゐて内閣を組織した。英國では保守黨が新議會に絶對多數を占めて、保守黨内閣が出來た。獨逸ではヴイルト内閣が倒れて、資本家的色彩の一層あざやかな、クノー内閣が成立した。反動の努力は今や世界を壓してゐる。そして日本では『過激社會運動取締法』の妖怪が、再び議會の形勢を窺つてゐる。

今年の議會に再び『過激法案』を提出するか否かについては、先頃一しきり新聞の問題となつた。之は昨年の失敗に鑑みて、先づ世間の人氣を偵察する爲に政府が放つた一發の照明彈であつた。其後政府は故らに平氣を裝ひ、最早や此の野蠻な法案を再び提出する意思がないかの如き素振りを示してゐる。ところが實際には、政府は昨年の不面目を取返へす爲め、否やでも應でも今年の議會を通過させる決心で、既にそれ／＼作戰を進めて居るといふことである。現に其爲には、言論機關の□□すらも着々進んで居ると云ふ噂がある。政府の作戰は、愈々といふ間際に至るまで『過激法案』の切札を匿くしておき、必勝の見込みのついた瞬間を捉えて疾風迅雷的に提出し、反對輿論の喚起せらるる遑を與へずして通過を計るにある。

日本の無産階級は、白色のテロリズムの前に立つて居る。

2 『過激法案』の精神

之が爲には、政府は昨年の反對に鑑み、法案の形式を最も通過し易い形に改めると云ふことである。そこで昨年は『眞晝中のお化』としてこの法案に反對した政治上の自由主義者も進歩的分子も、本年は却つて『お化』の容貌に魅せられるかも知れぬけれども、お化はお化である。如何に姿は變はつても、吾人は『過激法案』の立法の精神を見逃すことは出來ぬ。

『過激法案』の第一の精神は思想の支配と鎭壓である。『過激法案』の目的は、或る犯罪的の行爲を罰するばかりでなく、罰することの出來ない思想を罰しようとするものである。犯罪的の行爲を罰する爲には、現行の法律は決して不備でも不充分でもない。唯だ彼等は民衆の抱く思想を支配しようとする。そしてそれが爲には、民衆の抱く思想を懲罰する力を握らうとする。それが爲には現在の國法は、彼等の云ふが如く、慥かに『不備』である。そして彼等は左の手では民衆の思想を『善導』し、右の手では脅迫を以て民衆の思想を支配しようとする。

『過激法案』の第二の精神は行爲に對する刑罰ではなくて、人に對する復讐である。

『過激法案』が一度通過すれば、或る同一の行爲が新聞紙法乃至は治安警察法によつて罰することも出來れば、過激法によつて罰することも出來ることになる。其の選擇は警察の手に握られて居り、其の選擇の標準は行爲そのものではなくて、其人の抱く思想であり、從つて人によつてゞある。民衆は自分の言論と行動とが、新聞紙法乃至は治安警察法によつて取締られるのか、それとも過激法の酷刑によつて取締られるのかを知ることが出來ぬ。そこで苟も社會問題に觸れた一切の言論と行動とは、常に過激法の酷刑によつて威嚇せられて居ることになる。

それのみではない同一の行爲を新聞紙法や乃至は治安警察法によつて罰することも出來れば過激法を適用することも出來、そして其の選擇は事實上、官憲と警察とが其の人に對する判斷によつて決定するとしたならば之は法律上の刑罰ではなくて、實際に於ては、官憲と警察とが或る特定の人に對する復讐に外ならぬ。過激法案は官憲と警察とに、權力階級と資本家との必要に應じて、目星をつけた特定の人に對して、酷刑を以て復讐する自由を與へるものである。それは法律の名に隱くれて、最も野蠻な復讐の力を握らうとする陰謀に外ならぬ。

之が昨年の『過激法案』の精神であつた。そして此の精神を外にしては、固より『過激法案』の必要はない。お化は如何に姿を變へて出ても、依然として昨年のお化である。

3 自由主義者と急進的分子の責任

昨年の『過激法案』を葬つたものは無産階級の反對ではなくて主として政治上の自由主義者と急進的分子の反對であつた。吾々は自由主義者と急進分子とに對して、固より此の功績を認めねばならぬ。

けれども世界いづれの國を見廻はしても、政治上のデモクラシーが既に正午を過ぎてゐる大正十年に、脅迫によつて民衆の思想を征服し、權力階級の手に野蠻な復讐の權力を握らうとす

娼婦のシベリア『撤退』

伊井敬

『沿海縣革命委員會は公娼制度を以てブルヂョア制度の遺物と爲し勞農治下に於ては遊廓の存在を許さないことを定め、二日附(十二月)を以て沿海縣に於ては一切の公娼私娼を禁ずる法令を發布した』爲めに忠勇武烈世界無双の我が出征軍の遊擊隊として、シベリヤ各地に盛んに肉彈戰を試みた日本の娘子軍も、遂に撤退の已むなきに至つたそうである。

尤も、この娘子軍の撤退と、鐵砲かついだ軍隊の撤退との間には、大分、意味の相違はある。出征軍の退去は、軍閥の活動をたよりとするブルヂョア政治の末路を示してゐる。それは侵略的帝國主義が、内部からはそれ自身の破産に脅かされ、外部からは新興勞働者階級の威勢に壓せられて、ヘコタレた事を意味してゐる。娘子軍の退去は、之れと聊か意味が異つて、女肉小賣業の強制停止であるから、ペチ・ブルヂョアの敗北を物語つてゐる。と同時に、それは勞働者社會の第一要件、即ち安全な奴隷制撤廢の第一歩を實現したものである。それは勞働者道德の勝利である。

由來、資本主義制度の下では、鼻糞まるめて千金丹は愚か、淺草觀音樣の段々にたまる砂までも金にかへられるのだから、女の肉の賣買が、合法的營業として、軍隊の保護の下に海外までも廣められて、繁盛するのに何の不思議はないが、一歩退いて考へると、そこに、嗤ふ可き資本主義道德觀念の矛盾な價等は發見

る奇怪な『過激法案』の妖怪が議會に現はれたといふ事だけでも、日本の自由主義者と急進分子との大なる恥辱でなければならぬ。今日に至るまで、日本に政治上のデモクラシーが確立せられて居らぬのは、無産階級の政治的發達が外國よりも後れてゐたからではなくて、日本の自由主義者と急進分子とが餘りに早く當初の革命的氣力を失つて、早老狀態に陷入つたからである。

無産階級の解放運動は、決して政治上のデモクラシーを目標とするものではない。また政治上のデモクラシーに滿足するものでもない。けれども政治上のデモクラシーは、無産階級の解放運動に取つて有利な條件の一つである。從つて小中産階級を代表する自由主義者と急進分子とが、專制政治の遺物と抱合した大資本の階級に對抗して、政治上のデモクラシーを要求する氣力と勇氣とを維持してゐる間は、彼等の運動は、無産階級によつて或る程度まで支持せられるに相違ない。

然るに日本の小中産階級は、官僚主義と大資本との壓力によつて早老した。彼等は經濟的に大資本の前に屈服したように、政治的にも思想的にも其の支配と闘ふ氣力を喪失した。日本の無産階級運動が政治上の自由主義と急進分子とに對して、極度の侮蔑と不信とを表はすようになつたのは之が爲である。

然しながら資本主義が愈々成熟して、其の重量が上から壓し來るにつれ、そして新興無産階級の勢力が下から擡頭し來るにつれ、此の二つの壓力の中間に挾まれた小中産階級の地位は危殆に瀕して來た。そして斯ような形勢が政治運動の方面に現はれたものが、從本の資本家階級に對して新に急進的の一政黨を組織しようとする運動である。

そして是等の自由主義者と急進分子とは勢ひ新に勃興し來つた無産階級の勢力に着目した。殊に普通選擧の實現が最早や時間の問題となつた今日となつては自由主義者と急進分子との政治運動は無産階級の新勢力を打算に入れぬ譯にはゆかぬ。

然しながら記憶しなければならぬ。日本の無産階級は、最早や彼等の爲に傭兵となつて滿足するものではない。政治的に覺醒し初めた日本の無産階級は、最早や自由主義者と急進分子との爲に、火鉢の灰から燒栗を摘み出す役目に甘んずるものではない。彼等の空虚な政綱と綱領とは、最早や政治的にも獨立の一階級たらんとする無産階級を眩惑することは出來ぬ。そこで自由主義者と急進分子が、無産階級の支持を受ける唯一の道は彼等自ら權力階級と闘ふことである。彼等の政治運動が、官僚主義と資本の獨裁とに對する政治的對抗たる性質を有する限りは、政治上の自由主義と急進主義の運動は、或る點までは無産階級運動と協同の戰線に立つことが出來る。唯だ官僚主義と大資本の勢力の前に早老して革命的性質を失つた小中産階級の運動に、果して此の氣力があるか否かゞ疑問である。

過激法案の三元兇

床次竹次郎　大木遠吉　水野錬太郎

大正の日本に『過激法案』の如き年代錯誤の怪物が再現しようとするのは、主として自由主義者と急進的分子との責任であると同時に、恐らくは彼等の未來を決定する最後の試驗である。

4　滅亡階級と新興階級

然しながら權力階級が『過激法案』によつて目指して居るものは、固より政治上の自由主義者と急進分子の運動ではなくて無産階級運動にあることは云ふまでもない。そこで此の法律の影響を最も多く、しかも正面から蒙るものは、社會主義運動と勞働組合運動と小作組合運動とに外ならぬ。

或人は、自分だけは、乃至は自分等の運動だけは、大丈夫と思ふて安心して居るかも知らぬが『過激法案』に對して安全であるといふ意識は、その運動が無力であるといふことの、無意識的の意識に外ならぬ。

或人は『過激法案』は吾々の運動を眞劍にし深刻化する、吾々は『過激法案』を歡迎すると云ふかも知らぬ。

之は慥かに半面の眞理であるが資本主義の權力を、唯だ消極的に否定して納まつてゐるのは多くは無産階級運動の無力を直覺した爲である。

けれども今日は日本の無産階級運動が自己の實力に目醒めて消極的の否定から積極的の否定――積極的の對抗――に進む可き時である。

吾々は猛然蹶起しなければならぬ。

するのである。

尋常一年の修身讀本に母を敬へと教へてある。女が自分の母であり、妻であり、姉であり、妹である場合には、吾々は彼女を敬し或は愛さなければ、不道德漢として睨まれるけれども。彼女が他人の姉妹妻子である場合には、吾々は法律の保護の下に、彼女を賣買し或は辱め得るの權利を有つのである。

之れが資本主義道德の二面性である。女そのものに對する道德でなくて、女を自分の所有觀念に對照してのちに定めた『道德』なのだ。だから現代の道德は凡て所有觀念であると云へる。自分のものは凡て神聖にして不可侵、他人のものはどうでもよいのだ。――僕は前に之を資本主義道德の不脩と云つたが、それは誤りであつた。之れ位徹底した利己主義はない。

共產主義を誹謗する爲に、一時、露西亞に於ける『婦人の共產』と云ふことが流言された。先き頃、貴族院へ『過激運動取締法案』を提出したさきにも、或る政府の高官が、頻りと之れを云々して、華族樣方を怖がらせたそうだが、『解放』と『共產』との意味の相異も分らず、又た婦人の解放を輪姦の下準備と思ひ込んでゐる奴等の頭には、兎ても、今回沿海州が發布した婦人解放令の社會的及び道德的價値は分るまい。奴等は浦潮を追はれた女郎屋の親爺等の同類だからなし。

禁酒法案が久しく議會で冷笑され來てたのは、酒造業者の勢力の爲であるが如く、日本の政界に公娼の害惡が問題とならないのは、女郎屋の親父が選擧の場合にこわいからである。日本の政治は少なくとも女郎屋以下にある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最近の堺利彦氏
—負傷二十六日後—
一月十日午後宅の庭先にて
（小野曉君撮影）

東西南北よりの見舞

堺利彦氏遭難の報傳はるや、慰問見舞の急信が四方から集つた。未知の人からのものも頗る多く、社會のすべての部分に沸つて居た。その中の幾つかを、左に掲載する。差障りあり、思ふ人のは姓名を伏せておく。

○小學校から

——『革命の爲め斃る、瞬間、彼は眞の革命家となる』と言ふ句を、誰かの文章で讀んだ事があります、先生の今度の御災難、素より期せられた所ではありませうけれども殘念に堪えませぬ。傷の輕いのは何よりな仕合せです。大切のお身體ですから充分御加養を祈ります。——（岡山市××小學校×××氏）

○水平社から

——昨夜三重から歸りまして、先生の今度の御怪我の一件を聞まして驚ました。驅付けて御見舞中上る筈の處時機を失して申譯がありませぬ——一生の心計の御見舞であります——一日も早く御全快下され度天地を拜して祈つて居ます、一別以來忙しく運動して居ます——。（大阪南區榮町二ノ五三栗須七郎氏）

○寺院から

椿事は恐るゝに足られど發熱の由心配の事。

身輕法重此身弘法といつた日蓮は一方此の身佛身なるが故に重んずべしといつた。不自惜身命但惜無上道と經文にあるのを深草元政は爲レ惜二無上道一愛二此身一といつた。無事浮雲阿々大笑すべしサ。トモアレ御大切に御大切に（古澄氏）

○國粹會から

——今度の事はお氣の毒に存じ候。拙者は國粹會員にて社會主義には反對なれど、先生は平素から偉い人と考へて居ります。自愛して下さい。——（横川幸吉氏）

○文壇から

今朝新聞にて初めて、御遭難のことを拜見おどろきました、幸ひ大した傷では御座いません由、なほあと充分御大事のほどねがひあげます。（小石川區雜司ヶ谷町百十五藤森成吉氏）

○學界から

意外な災難で御座いました。充分御加養の程を祈り上げます。御見舞申し上げます。（京都河上肇氏）

○海軍から

——森下彌吉なる者の爲に御負傷成され候由、危險の御事に御座候、御難少さは申乍御氣の毒に存じ候。小生事は森下なる者が國家の干城にありながら懸る行爲に出し事は、實に我が軍隊の耻辱にして軍籍に身を置く愚生として只管慚愧の念に打たれ申候。——（吳港泊帝國軍艦多摩××××氏）

○陸軍から

——本日營内で新聞を親て驚きました一日も早く御全快になるやう偏に祈り上げます——。（弘前步兵第五十二聯隊第×中隊××××氏）

○政界から

——由來創擧の際多少の犠牲は免れ難き事乎。之れあるは則始者の名譽且つ他同志の奮勵たるべく候。小生聊想を異にする者も御同情に堪へず。不取敢啓中を以つて御見舞申上候——。（衆議院議員××氏）

○警察から

御見舞申上候。（高輪警察署×××氏）

○農村から

——親愛なる先生急報に接しまして心配で堪りません、御容態は如何で御座いますか——此敵は必ず近い内に打ち得らるゝ事と確信致します。否打たなければ成りません。——御自愛下さい まして一日も早く御全快して下さいまし、願ひます。田舍者の私も昨今は小作爭議の爲めに多忙を極め夜は眠られぬ樣な次第です。去る六日卒倒いたしました樣な次第です、都會も田舍もおそろしき速度を以てかの日は近づいてまいりました。先生の御活動停止は無產階級解放の日の延期と成るのですもの一日も早く御全快の程切望して止ないもので御座います。（京都市外嵯峨森英吉氏）

○工場から

——今回はとんだ災難で御座いました一日も早く御全快の程陰ながら念じて居ります——。（京橋區三十間堀太陽新聞社桑原鎮太郎氏）

○鑛山から

——とんだ御間違ひのあつた事を今夜の新聞で見て驚きました、幸に傷はかるいやうで何よりでした。足尾の勞働者は貴下が一日も早く快癒さるゝ事を祈つて居ります、何うぞ御手當専一にねがいます。（足尾町字簗原岡谷博氏）

○商店から

無理解なる惡漢の爲め無念の血涙を流して病床に呻吟せる先生の衷心の切情を想起する度に私は私の激情を堪へる事が出來ません——先生の一身上の不幸に止まらず延ては我が帝國の一大恥辱であり六千萬同胞の悲痛事であります。資本家に取りましては或いは幸福であるかも知れません。私達國民總人口の九割以上を占める無產者に取りましては一大不幸であります。又六千萬同胞の名譽に關する重大な問題であります。

帝國全民衆の智識の如何に低劣無智無理解なるかを全世界に對して遺憾なく證明して餘りあります、先生の御負傷を悲しむと同時に帝國全民衆の無智蒙昧なる心事の醜劣なるを悲みます。それも傳統の上に國を盜む權力者資本家が虛妄を教へ强るからです。先生殘念でしよう御推察致ます。かならず先生の仇は取ります。御安心下さい。かならず吾等正義の靑年が天地に誓つて先生の御無念を晴します。他日御全快の上我等が開始する奮鬪戰に御參加を願ます、正義はかならず最後の勝利です。

彼等横暴無理解なる人類の公敵、バチルス寄生虫の馬鹿者を一撃の下に徹底的に膺懲を加へ、天人の命に從ひ我等新靑年同志の鐵腕を振つて、彼等資本家の立て籠れる資本主義の牙城を粉碎せんとする、此の大事業に對し、吾等は最善の努力をなさあり之凡ゆる全心の熱血を灑ぎます。先生の主義に忠實なる其獻身的努力に對して吾等の微憹全部を獻げます、玆に謹しみて御見舞申上ます。（日本橋區堺町四美のや内島村鼎氏）

○中華民國人から

今朝報により先生には不逞倭人、つまり日本式馬賊森下某の毒手に遭遇なされ驚愕至極で、幸に大事ならざる模樣で少々安心致しました。尙御靜養下さい一日も早く御復元の事を遙かに祈ります玆に取敢へず御見舞申し上ます。（在鹿兒島市下薗田町二九酒匂方蔡周中華民國生）

○町役場から

森下某なる軍人上りの分際漢の爲に襲擊せられ重傷を負はれ候よし——時代は尙ほ斯かる頑迷者流の横行して官憲の目醒めざる殉に痛憤の至りなるも一面彼等の謬想は憫笑の次第に御座候。（富山縣滑川町役場鏡田義三氏）

小生今回の負傷につき御見舞を賜はり厚く御禮申上げます。

傷は四五個所とも幸ひに急所をはづれ、回復の經過もよろしく、醫師の診斷に依れば、今日のところ最早や何等の懸念もないとの事であります。然しながら其の前の盲腸炎の病後とて申し、多少少なからぬ疲勞を感じて居りますので、當分は只だ引籠り靜養の心得であります。

繰返し貴下の御厚意を謝します。

一九二二年十二月廿三日

堺利彦

六百餘人に發せし謝狀

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

軍隊で暴れた話（一）

後備砲兵一等卒　福田狂二

1. 尾行附きで入營

顧みると十六年前のことである、明治四十年十二月一日、横須賀重砲兵第二聯隊に徴集された。私は軍服を纒ひ劍を吊つて毎日××の××をすることを非常に××と思つた。

當時、露國のウクライナでは××の叛亂が起り、其の勢ひは猛烈にして侮るべからざるものがあつた、社會主義者たる私は徴兵制度に服從して兵卒となることを衷心××に思つた。

一旦兵隊に當つた以上は、日本に居ては避れることはできない、併し止むを得ない、入營してから日露戰爭後勝ち誇つた軍閥に、××××××××同志吉川守邦、赤羽一、西川光次郎氏等に送別の際、堅く誓つた。

××に×ることが嫌やだつたが、聊か他に期する所があつたから内心密かに喜ぶ所もあつた。

尾行附きで入營し、警視廳からも其の旨通知があつたらしいので所謂幹部連も變な眼付をして私の顏を見て居た。二三日はおとなしくして居たが、或日のこと恰度六日目ぐらゐだつたらう。午前の十一時頃、練兵が終つて歸ると、中隊事務室の前に二年兵の二等卒が腰掛にすわつてゐた。私が脱帽して敬禮すると『此處は室内ぢやない擧手注目の敬禮をせよ』と叱り付けた。私はその通りした。併し餘り笑可しかつたので思はず吹出したら、直ちに私の横面にピンタが飛んだ、その瞬間にその二等卒クンの身體は三間も先に飛んで居つた。

私は悠々として自分の班に歸つた。五分許り經つと、古參兵や上等兵が六七名やつて來て、『上官に抵抗する奴は毆れッ』と言つて飛びかゝつて來た。此も見る間に叩き付けた、もう誰も相手にするものはない。班の上等兵ですら『お前はそんな亂暴をしては將來の爲めに損だ』と言つて恐る〳〵忠告したぐらゐであつた。

2. 拔劍して暴徒を逐ふ

もう大丈夫と、安心して居ると其の夜消燈後、四五十人の古兵や下士共が箒や帶革を以て眞ッ暗い中で私を毆つた。隣に寢て居た新兵共は、卷添へを喰つて頭を割られた者もあつた、私は是れにも屈せず、傍にあつた×を×いで、一人の古兵を×つた所、皆吃驚して、今までの勢は何處へやら、蜘蛛の子を散らすが如くに逃げて了つた。

××××××××私は、勢猛虎の如く其の儘、中隊週番中尉室に入り、士官を叩き起して『兇徒を嘯聚して暴行をした故正當防衛を行つた。此の兇徒は縛して軍法會議に送れ』と怒鳴りつゝ迫つた。

當時は尙ほ舊刑法施行中で、今の騷擾罪を當時は兇徒嘯聚罪と言つた。私は自分等が時々引つ掛けられそうだつたから、その刑名だけを知つてゐた。

在營當時の福田狂二

士官は、私を宥めて寢さしめた。此の頃の軍隊では、大勢寄つて毆るとか怪我をさせる位のことは默許して居た。河合澄夫と云ふ少佐の如きは私を殺しても好いと煽動したことがあつたさうだ。

3. パンフレットの配布

私は入營はしたもの丶所謂、××××として數へられた××××も覺えようともしなかつた。

入營後、二回目の日曜からは外出を許されたから、横須賀市の同志、栗崎氏宅に寄つて當時の平民社發行のパンフレット、安部磯雄氏の『社會主義』や村井知至氏の『社會主義論』西川光次郎氏の『富の壓制』トルストイの『戰爭論』や『社會新聞』などを持つて來て兵隊の間に配つた。

內山信三、依田保數、石動榮吉、川口榮六等の同志が出來た其外色々な人に社會主義の話をして聞かせた。

この四人の人々も朧ろげながら社會主義を知つた、私は『××は罪惡である。不生產的である。××は商權の擴張の爲め行はれるものである。軍人は國家を護るものである、國家とは少數階級の國家に非ずして、國民全體の國家である、國民全體の利益の爲めに軍人は起たざるべからず』かう云ふ風に宣傳した。

今から考へると、効果は尠かつたやうであるが、當時、私が軍隊に入つた爲め師團長會議が開催されたと云ふことである。

4. 上海に亡命す

翌年の一月九日即ち入營後三十六日目に私は決心した。×××××××××××××××××××××、甚だ意久地のないことである、新聞の報する所に依つて、香港に無政府主義者モストの一派某や、薩議が來たと云ふことを知り、是れと一緒になつて、全世界に向つて、××××××を斷行し、權力階級を戰慄せしめんと思ひ、五日の朝、尾行の憲兵をまいて東京に隠れた。東京に二十日許り居つて、吉川守邦君や赤羽一君や西川光次郎君の援けに依つて上海に亡命した。

當時の新聞は、驚異の事實として『×××狂二脫營せり、彼れ聯隊壁上に一刀兩斷×××と大書して去る、安井中尉は是れを見て腰をヌカせり』と大きなみだしで報じた。

そして憲兵隊は百圓の懸賞附きで、私を捕縛せんとて全國の憲兵隊や、警視廳や警察と協力して大搜索をした、併し私は逃げることに巧みである、支那留學生廖伯琨君の支那服を着て英國滊船に投じ途中門司に立寄つて日本の國土に別れを告げ、官憲の迂濶を笑ひつゝ上海に向つた上陸して直に廖氏の紹介にて英國租界大馬樓棋盤街の中華書局と云ふ本屋の四階に隠れた。

この本屋の主人公は陸費逵君と乙廖君の親友で支那革命の後援者であつた。そして此家の四階は暗殺團の本部で鐵血監視團の余君や袁世凱を暗殺せんとして破れ、爆彈を以て自殺した烈士馬君の隠れ家であつた。私はこれ等の志士と交り得た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

鈴ケ森だより

社會主義雜誌と廣告

私は八年前から雜誌を出して居る。是が私の職業である。そして雜誌の經營の爲めに廣告を取つて居る。此の廣告を取ることに就て、何か惡いことでもしたやうに云ふ人があると聞いて居る。

無一物にて雜誌を經營せんとする私等に取つては廣告を取ると云ふとが絶對に必要である。隨て必要は善であることを確信する。廣告する人も當り下らない新聞には廣告を出さない、故に廣告の質や量はその出版物の權威のバロメーターであるとも考へられる。

昔の平民新聞以來、すべての社會主義雜誌を見ても廣告は滿載されて居るではないか。現に週刊平民には梅毒の藥の廣告まで續つてゐる。

新聞雜誌を經營する上に於て、貧乏な同志をせめて金を出させることは大なる罪惡であると斷定する。或る人は同志が金を出さなかつたら惡聲を放ちその新聞を以て攻擊したが、これなどは全然ゴロツキのやうな遣り方である。

私共のやうに雜誌に廣告を取つて、經營してゐるものは未だ曾て同志に一錢だつて寄附さした例しはない。

私は同志を擦ると云ふことは大なる罪惡として交情を傷け遂に團結を鈍らしむることになりはしないかと思ふ。こんな例は枚擧に遑のない程ある。

知識階級排斥の聲が、このやうな場合金を出さなかつた人に對する原因の一つであつた事も考へられる。

又社會主義は文士の獨占ではない。勞働者の占有物でもない、例令、資本家でも官吏でも社會主義者たることに差閊へはないのである。歐洲社會主義者の巨頭ザローレスが數百萬の遺産を遺したと言はれて居るではないか。社會主義は現在少數の社會主義者の占有物ではなくて、人類全體の社會主義である。

潔癖派の職業を問題にするといふことは、政友會が憲政會の運動を一緒にやらないと云ふことゝ同じことではないか。要するに社會主義者は、どんな職業に從事して居ても、たとへ泥棒の前科があらうとも現在の制度に於ては、止むを得ないことであつて、之れを排斥すると云ふことは徹底した社會主義者の行動と見ることが出來ない。（福田狂二）

獄舍の思ひ出

すみ子

×

『前科者』を恥とのみ思ひ七年をしのびしわれの心いさしも

×

かの夕べわれに手錠と繩と棒示しゝ片眼の刑事忘れじ

×

留置場のかのやさしかりし賣笑婦姉の如くに今もなつかし

×

『出たらすぐ何か一所にやりませう』かたく約せし友もありにき

×

四十度の熱にたえつゝ死ぬなれば『社會』で死にたしと切に祈りぬ

田舍の兄に

『……兄さんが長男の兄貴みたいな馬鹿者でない限り、現在の社會組織がどのやうなものであるかは知つて居ませう。それを考へれば、我々の家族が一體どのやうな立場に居るかはわかりませう。

『……長男の兄貴の生活を、あなたは毎日見て居られるが、一體あれはどのやうな意味だと考へてゐられるんですか。あの無智な男が、何一つ仕事をしないで毎日絹づくめの着物を着て、酒を呑んで女を苦しめて日を送つてゐる。あの馬鹿な無茶な。それで贅澤極まる生活を續ける金が、一體どこから來るんです。

『……金や酒は一人で地から湧きはしない。皆んな小作人の汗と血との固まりではないですか。小作人が馬牛のやうに喘ぎ々々働いて、全く自分の肉を削り取るやうな思ひで作つた米、それを自分で喰ふ事も出來なければ、自分で賣つて使ふ事も出來ない。それは內の兄貴に、兄貴と同じやうな地主に、小作米と言ふ名前で取り上げられるからです。

『……その小作米を錢にかえるからこそ、兄貴のあの放縱な暴慢な贅澤な生活が、自分は汗一つ流さないでやつて行ける人です。

『……遊ぶ兄貴が馬鹿贅澤の限りも盡し、牛馬のやうに苦しんで働く小作人がロクに飯も喰えない貧乏に惱まなければならぬ。之が今の社會の有樣です…………』（手紙の一節—伊藤三郎）

射擊の稽古

編輯所の南側に三十分の一デッシャン程の草原がある、丈餘の茅など生ひ繁つて頗る荒凉幽邃の趣を呈してシベリヤの大平原を偲ばしめたが、僕等が今國に歸つてゐるT君等と燒拂つて仕舞つた。それを見て大阪から歸つたばかりの福田君が「自然の風致を害ふた」と惜んだが、今は鐵條網を張りまはして射擊の練習場になつてゐる。同志諸君は朝早くからズドンーズドンと餘念なくやつて居る。云ふ勿れ何時か來るべきその日に備へる爲なのだ。一番上手のがその昔兵營のあばれ者砲兵一等卒（一等卒にあげたのは中隊長が機嫌をとる爲であつたさうだ）福田君であつたが今では土佐生れの阪本龍馬ならぬ北原龍雄君だ。同君の技は神に入つて百發百中破壞を還ふし、今庭を掘つてシヤレコウベを探してゐる志士のが出てくれば床の置物にしやうし、惡竊のが見つかれば目標にする。目標のインクスタンドはケシ飛んで行く。

原稿を頼みに行く仕事は、私の受持です。慣れない事とて大ぶやりにくい。頼まれる方でも頼まれにくい事でせう。それでも初號には豫定以上のものが貰へた。何んとも有難い次第です。今後も何分よろしくお願ひします。（竹井虎四郎）

堺氏へのハガキ

今新聞を見て遭難を知る、幸に傷淺しと、喜ぶべし、老兄よ社會黨は革命黨也、今後刺客來らば眞二つにせられよ、予が今春贈りし寶刀、是れ兇漢を屠る名刀也、刺客よ、多々益々來れ、吾れ老兄に代つてこれを鏖殺せん而已、傷の一日も早く快癒せんことを祈る。（十二月十七日、大阪の旅舍にて狂二）

編輯係りから

〔1〕昔は首を切つた鈴ケ森で、今は活字を繫ぎ合はす。出來た雜誌は、首を晒したやうに本屋の店先きへ晒す事となるだらう。古今チヤンと話の筋が合つてゐる。

〔2〕往復はがきでの質問に對して返事を下さつた方に先づシミ〴〵お禮を申し上げる。お蔭でその欄は少々賑やかに入つたものが出來た。

〔3〕『運動の經驗と思出』はミッシリ力を入れて原稿を強請し今後も續けて呼び物にしたい。こゝへ澤山いゝものを書いて貰へれば、實戰の研究資料としても面白い讀物としても立派なものになる。

〔4〕原稿の催促には遠逵郵便を速發するに限る。どんな横着なのでも速達を三版位まで發行すると大てい利き目が現はれる。

〔5〕原稿を書いて下さる方に、お願したいのは雜誌の編輯者と寄稿者とは、名優と舞臺監督との關係だと言ふ事を考へていたゞきたい事だ。

〔6〕雜誌全體を有機的に組織するには——と言ふと大舛な雜誌のやうに聞こえるがどうしても原稿の內容をこつちで極めて注文するの他はない。

〔7〕諸大家の方でそれを無視せられ、勝手なものを書いて下さると由良之助をやつて貰はうと思つてゐる團十郎がイノシヽになつて二段目へ飛び出すやうなアナキズムになる。

〔8〕『忠を名に呼ぶ丸橋が、君に盡さで逆まに、民に盡せし志！』と謠はれた丸橋忠彌の斬られたのも此の鈴ケ森である。

〔9〕その忠彌は寶藏院流の槍の達人だつたさうだが福田狂二はその昔康砲兵當時、銃槍を取つては聯隊第一の名を得たと自分で言つてゐる。

〔10〕名し夫れ天下の風雲逆亂し來り、捕吏群を爲して殺到する時到らば、彼は左團次に見た忠彌そのまゝの格好で死骸の山を築いて見るさうだ。それでは愈々古今話の筋が合つて來る。（北原龍雄）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十五六年頃の片山潜氏（向つて右）と××××氏（左）

片山潜氏の記憶

福田狂二

キングスレー館

私は、明治三十八年初夏より氏に從ひ、大正三年九月、氏が再び渡米せらるゝまで、始終、師事して居た。恐らく私は最もよく氏を知るものゝ一人であらうと思ふ。

明治三十八年の夏であつた。現今は日本大學の構内になつて居るが、其の時分は、路次を隔てゝ當時の日本大學に面した、百五六十坪位の庭のついた約三十坪の二階建の門構への家で、門の右方に『片山潜』と記した門札があり左方には『三崎幼稚園』と筆太に書いた大看板がかけられてあつた。

この家こそ忘れ難いキングスレー館であつて、實に日本に於ける社會主義發祥の地であつた。氏が米國から歸られてより（たしか明治二十九年頃であつたと記憶する）こゝに住居して旺んに宣傳に努むると共に各方面に勞働組合の發生を促し、且つそれと聯絡を取つて實際運動をやられた。當時、氏の家に出入するものに大學教授あり、政治家あり、文士あり、勞働者あつて總ゆる階級を網羅してゐた。その中には島田三郎、村井知至、佐久間貞一、松村介石、松本君平、竹越與三郎、手島精一氏等もあつた。同氏の階下は午前は、幼稚園に使用され、日曜日や午後からは社會主義の講演會場に當てられた。講演會は毎週土曜日に定期に催された。階下は段の間で優に百人位收容することが出來た上に、幼稚園の椅子や黒板を其儘使用することができたから、會場には以てこいであつた。講演會に色々な人達が來た、或る晩には日本大學の學生が三百人ばかりやつて來たが、聽衆が多かつたので會場に入ることが出來ず庭に立つて聽いて居たやうなことさへあつた。

此の家は大正三年の八月に、僅か五百五十圓で人手に渡つたが、今となつて見れば色々な意味に於て、實に惜しいものであつた。

片山氏の人物

氏は極めて眞面目な人であつた。幼少にして活版工となり、十八歳の時渡米して皿洗ひや、スクールボーイなど勞働し乍ら苦學した。氏の頑丈なる體軀と、鐵の如き鞏固なる意志とは此の間に鍛え上げられたものである。

氏には之れと云ふ道樂がなかつた。酒もやらなかつた、烟草も用ひなかつた。そして事務の才があり、行動に秩序があり、淳朴で高潔な人格の所有者であつた。一見ドコカ法律學者と云ひたいやうな所があつた。

意志の鞏固なことは無類であつた。何か仕事をやり出すと、如何なる障碍があり、如何なる苦痛が伴はうとも、それをやり徹さなければ止まなかつた。

私共が朝寢をしたり、新聞の發送を遲らせたりしてよく小言を頂戴したものだ。他に對しては非常に嚴粛であつたが、一面に又、大きな度量の持主であつた。社員の非行を咎められたが決してこれを排斥はせられなかつたやうである。

總てがこんな調子だから、内に燃ゆるが如き情熱があつても、是れを少しも表に現はさず事起れば、冷靜に考察した後、徐ろに所信を斷行される人であつた。

氏は小學校もロクに卒えずに活版職工となり、十八歳で渡米されたから、日本の文字には極めて縁が薄く、日本文は殆んど書けない位であつた。それで、三崎町時代の五十過ぎに、論語や孟子などの漢籍を讀み始められた。當時私なども時々教えてあげた。私等に氣持ちよく質問をされたりした所に、氏の眞面目な性格が窺はれた。

山川氏の眞摯な性格は敵にも味方にも認められてゐるが、私は片山氏は山川氏よりも一層謹嚴な眞面目な人であつたと思ふ。

うす痘痕のある引緊つた顔に鐵側の眼鏡をかけて、何時も小ザツパリした着物を着けてゐた氏の面影、思ひ出せば懷かしく眼の前に浮んで來る。

氏の無政府主義論難

氏は純學究的な人ではなかつた。併し社會主義の理論は米國で充分研究されて來た。勞働階級の權力掌握と言ふ事は大體考へて居られた。國家とし言へば資本主義を支持する他に何等の機能も無いやうに一般に思はれてゐた當時にあつては、片山氏の此の思想は眞實の理解を得る事が出來なかつた。それが爲め、明治四十年頃、國家社會主義者だと嘲られた事もある。その頃、國家社會主義と言へば社會政策の意味である。

明治四十年の夏だつたと思ふが、例の社會主義講演會で、幸徳秋水が無政府主義を高唱した時、氏は立つて曰く『無政府主義は空想である。マルキストは之を明かに排斥しなければならぬ』と。それからモスト、バクーニン、クロポトキン等の説を逐次論駁した後に『無政府主義は人類を向上せしむるところでなく、却つて人類を墮落せしむる謬想である』と結んで斷を下られた。私等は此の明快な批評を聞いて、全く痛快な思ひがした。その時齋藤兼次郎翁がその後を承けて、更に無政府主義を攻撃したやうに思ふ。

二十年に近き前のあの時の有樣を追懷すると誠に感慨深い。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

癪味と痛快味

最近最も癪に觸つた事
最近最も痛快を覺えた事

○今好一雄氏

最も癪に觸つた事
堀田ゴム工場主毆打事件にて検事曰く『今宵は勞働ブロウーカだ云々』

最も痛快だつた事
同じ時検事を罵倒して小作曰く『生な勞働ブロウカーと言ふ可くんば検事の如きは法律ブロウカーと言はれても致方なかろう』

○糸川二一郎氏

一月早々の事である。横濱中の立ン坊の集まる地藏坂での事件だ。此の頃の寒さに薄着の連中、到底我慢が出來なくて燃き火をする。附近の巡査も、事情が事情だから燃き火を默許するの他はない所がある日、巡査部長でワカラない奴が通りかゝつて、イキナリ燃き火を川へ投げ込んだ。相手はそれを聞かず、又やつてる所を見附かつて、今度は拘留するんだ。俺は巡査部長だから承知しないさ、自分のアダ名まで言つて、その中の三人を警署に引き立てた。そこまでは大いに癪に觸る話だ。

所が之からが痛快である。引つ張られた三人は警署に行くや、之は面白い、正月早々タダで泊めて貰つて、その上飯まで喰はしてくれらあとやり出した。引つ張つて行つた巡査は張り合が拔けて、今日は許してやるから歸れと言つた。今度はこちらが許さない、人樣を勝手に引つ張り込んで置いて、いゝから歸れもないものだろう、サー約束通り泊らせろと來た。署長以下、不精無精、泣き面で『それでは拘留十日に處す』で

○西尾末廣氏

最近は何れも無いが
(一)熱心な新運動者が自分の働いてゐる工場で宣傳の結果、ヤット基礎の出來かゝつた時馘首されて『如何しましよう』と相談に來られた時です。

ストライキを決行する事も出來ず其の男にも何だか濟まない樣な氣がする、私は何時でも此んな時には反逆の血が全身に漲るのを覺へます。
(二)資本家や官憲には何時もヤッツケられてゐるし、同志をヤッツケる程の蠻勇のない私には『痛快だつた』事は殆んどない。

○山崎今朝彌氏

最近最も癪に觸つた事は某事件で某判事が自分の殘忍性から被告や縁者の苦悶するのを頻りに喜んで調べた形跡があつた事と、堺君の明白なる殺人未遂事件を何故か官憲が之れを傷害事件と極力辯護した事である。前者に對しては面白い事を考へ今に目に物見せて呉れんと獨り樂しんでる處は、僕も亦殘忍性があるかと思はれる。後者に對しては新年イの一番に普通裁判所へ殺人未遂に基く二十圓の損害請求民事訴訟を起し、軍人裁判所から記録の取寄をしたり、打合前上官の心も知らず其晩功名顔に逐一事實を語つた刑事を證人に呼んだり、軍人裁判所が態と調べない證人を殘らず調べたりしたいと折角堺君を煽動して居る。

其他無政府主義者が、俺は社會主義者なんかとは譯が違ふと云つたやうなことを言ふこと。社會主義者が、國家社會主義者なんかは仲間でないと云つたやうな顔をすること。國家社會主義者が俺達はもう足を洗つた局外者であるといふやうな態度に出ること、勞働組合の所謂『お出入り者』が元方では漸く昨今考へた事だに、一年も前から一人で覺えたやうな口調で、戰鬪力の集中だの新社會の芽生へだのと議論めいたことを言ふこと、僕の『堅公』が習ひ初めた英語を無暗矢鱈に使ひたがるとも聊か小癪に障る

最近最も痛快だつた事は二十六年間小指一本も指す事の出來なかつた元老大家で堅めた日本辯護士協會が、十二月九日の總會で、一致團結せる無名無力の青年辯護士に跡片もなく乘つ取られた事。特に双方の間を泳ぎ廻つて甘い汁を吸ひ又は吸はんとした打算家を一掃し得たこと

○田所照明氏

憤慨なことは――大杉のロシア攻撃
痛快なことは――西比利亞出兵の失敗

○平林初之輔氏

癪にさはつたこと、罷業勞働者に對する官憲の狂犬的壓迫、議會反對黨の體たらく、個人的には病氣で動けぬこと

痛快なこと、海賊船がつかまつたり、カムチヤツカ事件で逃れちを喰つたりした時の政府のあはてかた。小作人の覺醒等。

○水沼辰夫氏

大概な癪にさわることには漫性になつて居るが、日本の所謂ボルの奴等の態度はピンからキリまで癪に觸る、就中無政府主義は革命の敵などゝ放言する如きは其の甚だしきもの。

最近最も痛快だつたことは別にない、痛快な出來事は將來に期して居る。

○高野武二氏

一、世事癪の種ならざるはないが、所謂無政府主義者と稱する一派の反動的傾向の愈々露骨になつて來たことは、蓋し近頃癪に觸る最大のものであらう。何となれば彼等は眞正面からの敵ではなく、實に勞働階級の陣營から出た裏切り者であり、獅子身中の虫だからである。それ以外にしては、安價な宗教的逃避思想の流行なども、可なり胸糞の惡い現象の一つだ。

二、日本の支配階級とその附屬物連に一部アナキスト等の意志と希望に反し、西比利亞特に浦潮が完全に赤化されたその一事近頃以て、溜飲三斗に値ひするの出來事でなければならぬ。

○石川三四郎氏

近來世の中が沈滯して來た爲めか、私が老耄した爲めか『癪に觸つた事』が無くて御返事に困ります。然るに此際一騎當千の猛者諸君が『進め』を御發刊なさるといふのは最近の最痛快事だと思ひます。ドウぞ老人共を蹴散らして『進め』『進め』と呼號して下さることを祈ります。此呼號が鈴ケ森刑場跡から出るのは誠にふるつてゐます。

○橋浦時雄氏

一、最近最も痛快だつたのは、赤軍が浦潮に入市した時、白軍が本性を曝はして、カツパライや強盗をやり出し、白軍を後援してゐた日本帝國軍閥の面目が丸潰れになつた事だ。

一、近頃は大して癪にさわる事もない資本主義斷末魔のもがきや、實際運動から置いてきぼりにされる純理想中毒者のもがきは物の哀れを感ぜしめるに過ぎない。

○遠藤友四郎氏

痛快だつた事と云つて、大した事は無かつたが、多少それらしかつたものを、程度の順で書いて見れば、中岡艮一君の辯護お斷りと橋本に對する無罪判決、海賊團の報道、神近市子君の豚に投げた眞珠、まだあるだらうが思ひ出せない。僕は自分自身が徹底的貧乏で通せたのも、苦しいけれど痛快な一年だつた。

癪に障つた事も、大して考へられない。僕は全體、世相一切が、淋しくすこしに癪にさわつて居る一人らしい。

○柴田富太郎氏

痛快だつたこと、
(一)浦潮の日本人の女郎屋と料理屋が禁止されて敦賀に引上げてくるついでに日本内地のも禁止さしてやりたい。
(二)銀行の取付が痛快だ。
癪に觸つたこと、
(一)久留弘三氏(前關西勞働同盟會總務)夫人華子が萬引したから久留氏は田園生活に入つた。夫人が萬引したのは社會の罪ではないか。それに社會運動が出來ないとは何事だ。

○布施辰治氏

銀行重役の横着と無責任さを詰問する爲めに集つた四谷銀行預金者大會の連中に熱が無くて、銀行側の瞞はし者に籠絡されたブザマサ(十一年十二月十四日)

水平運動を壓迫する爲めに殆んど問題にならないらしい事件を檢擧して、斷然釋放の不許を決定して居たらしい、差別的取扱に抗議して、直ちに全部の責任釋放を得た事(大正十一年十二月廿八日)

○津田光造氏

近頃最も癪に觸つた事は『所謂プロ文士』と云ふ野郎共のつけ上り加減である。資本家の造つた文壇に居候に住み込ませて貰ひながら、それで甘へて好い氣になつて居る。こんな奴等がプロレタリアが何うの斯うのとヌカすと實際癪に觸るよ。そのほか『痛快』と云ふほどの快感を感じた事は餘りない。一生に一度位あつてくれゝば好いがと思つて居る。

○新居格氏

(一)チヨイ〳〵癪にさわる社會上の出來事は隨分あるが、最近、何が最も癪にさわつたかはハッキリしません。
(二)狂一高生が有樂町の電柱の上にかけ登つた事件です。あれは世界に示して誇りうる痛快な事件と思ひます。確かに近代的です。ポールの絶頂でアブナイ藝當を演じながら、地上の者ども騷ぐなと奇燄をあげたり、救助袋に這入つて降りて來る騷ぎが當時の新聞にのつてゐて當人の居る所を白く×のしるしをしてあつたのも愉快だが電柱には一高の制服がぶらさがり、いよ〳〵降りて來るとみんなで萬歳など、喝采したのも面白かつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命を守る魂

ウクライナに於ける農民軍

人が人を搾り取る事の絶滅せられた社會主義國家の出現が、大多數の人類に取つて、最大の慶びであるだけに、資本家に取つては最大の呪咀である。

露西亞の資本家と地主は、昔の夢が續けたかつた。そこに反動革命が起された。

それを見逃さなかつたのは四隣の資本主義國である。彼等は露西亞の革命に依つて、先づその國から利得を搾り取る望を失ふた。次に國境を越えて侵入して來る赤色思想に戰慄した。勞農露西亞を撲滅する事．即ち露西亞の大衆を再び地主と資本家との搾取の下に投げ込む事は、彼等に取つても切實な願ひであつた。

そこで彼等は、出來るだけの詭辯を急造して反革命軍を助成した。——日本の如きは、チエックとか言ふ、嘗て名を聞いた事もない國への奉仕を名とした。そして悲慘にも、チエックの國民の數に近き自國のプロレタリア兵士を西比利亞の雪の中に逐ひやつた。——かくて反動革命と四方の資本主義國とは常に結合して勞農露西亞に迫つた　それが、所謂白軍である。

一九二〇年の秋、ウクライナの或る町は強大な白軍に占領された。勞農軍は病院の負傷者を收容する暇もなく他の方面に向つた。病院には、百餘名の重傷者が呻吟して居た。彼等の持つて居た銃はあるが、それを振ふ力はもう失せて居る。このまゝ彼等は白軍の虐殺を待つの他は無い。

その急が附近の村々へ、電のやうに報ぜられた。村人の多くは、素より勞農露西亞の愛國者である。既に昨日からの銃聲を聞きつゝ、虎狼の如き白軍に對し、敵愾心を燃やして居た彼等の憤激は、遂に彼等を起たしめた。

俺が行かう。わたしが行かう。彼等は一齊に叫んで病院の方へ馳せ向つた。鍬を握つて居た農夫も、槌を振つて居た職工も、孫を抱いて居た老翁も、母の病を看て居た少女も！

彼等は仕事着のまゝで、不常着のまゝで病院の方へ走り集つた。

男、女、老人、少年、一人々々に異る姿に、たゞ一つ共通せるものがあつた。それは革命に對する熱愛である。

病院には幸に負傷兵の持つて居た銃があつた。手に手にそれを取り上げた彼等は、その形の極めて醜ひその魂の最も見事なる軍隊を、一瞬の間に編成し了つた。

勞農露西亞の五年間は、げにこのやうにして支へられて來た。新しき世界に人類を導く最初の通路は、かくの如くにして守られて來たのである。

精鋭なる武器、豐富なる食糧、訓練が充分なる白軍は、實にこのやうな革命の魂の威力に依つて、今や跡方もなく農勞露西亞より驅逐せられた。見よ××の如きは、三井三菱の爲めに鑛山一つ奪つてやる事も出來ずに逐はれたではないか。

げに、人の抱き得る勇氣と信念と犧牲との最高度の上に起ち上つた農民軍よ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

運動の經驗と思ひ出

1 雪の細尾峠と仙人峠

荒畑寒村

一

明治四十年の一月、足尾銅山に第一回の暴動が起つた。此時は足尾に引續いて北海道の夕張りにも、四國の別子にも、大騒擾が勃發したので有名であつた。

當時、日本の社會主義運動は東京に日刊平民新聞を有してゐた。足尾銅山騒擾の報到るや、平民新聞は直ちに西川光次郎君を特派して通信に當らしめた。すると今度は、騒擾の張本と目せられた足尾の至誠會員と一緒に、西川君までが兇徒聚衆の被告として檢擧されたと云ふ飛報が到來した。

誰か代りに派遣しなければならぬ、と云ふことになつたが、當時、平民新聞の記者は概むね前年の電車値上問題の折の兇徒聚衆被告事件に連座してゐるので、迂濶に派遣することが出來ぬ。そこで、編輯局中の最年少者だつた僕が見立てられて、足尾に特派さるゝ事となつた。だが、平民新聞記者では危險なので、某新聞社に交渉してその社名を借用して急拵への名刺を刷り先頃物故した山口孤劍の洋服を借りて、新宿座の隣りにあつた平民社を飛び出した。社へは判檢事の家宅捜索があるやら、他の新聞社から探訪記者が押かけるやら、大騒ぎだつた。

日光で某社の記者二人と一緒に泊つたが、翌朝は大雪だつた。他社の二記者は馬で行くと云ふが、こつちは旅費が手薄だから、おヒロイだ。積雪膝に達する細尾峠を越えて足尾の町に入ると軍隊、憲兵隊、警察官の嚴重な警戒ぶりは、蟻の這ひ出る隙もない位ゐ。何處の宿屋も、内務省の役人や、軍隊の司令官や、判檢事や、新聞記者が泊り込んで、空いてゐる家は、一軒もない仕方がないから、前年傳道行商に赴むいて懇意になつてゐた坑夫某君の家に宿つて絶へず電報で東京の本社へ通信してゐた。

此時はもう、軍隊の出動に依て騒擾は概むね沈靜し、嫌疑者が續々檢擧拘引されつゝあつたが、まだ坑内に潜伏して居る者があると云ふので、それを檢擧する爲に巡査の決死隊などが募られてゐた。沈靜したとは云へ物情騒然、人心恟々、まるで戰爭のやうな物凄い空氣が足尾の町を支配してゐた。

二三日すると、某社の記者が僕に『警察が君を求むること急だ』と注意して與れた。危險に瀕するし、事件は概むね片づくし、もう引あげてもいゝと思つたので、其夜出發の準備をしてゐると、宿の主人なる坑夫某君も遂に檢擧され、家の周圍を夜つぴて巡査が警戒してゐるので出る事が出來ない。拂曉に至つて、そこの妻君が『いま巡査が居ない』と知らせて與れたので大急ぎで飛び出した。そして再び細尾峠を越えて日光に出でた。

雪は霏々として降つてゐる。手錠をはめられ、捕繩で珠數つなぎにされた坑夫が十人位づゝトロッコに押し込まれて數名の巡査が護衛しながら押して往く。孰れも假豫審がすんで宇都宮の未決監に押送される連中なのである。僕は至誠會員某、某君等の妻女と一緒だつたが、送られて往く坑夫等は、同志の妻君に向つて、

『峠にかゝつたら、雪が深くて下駄じや危ないから草鞋にしろ』とか、

『峠は、餘つ程用心しないと危ない』とか、口々に注意して居る。恰かも身の檻車に在り、牢獄に投せらるゝを知らざるが如くである。

妻女等は泣いてその好意を謝した。僕は舊知なる某君、某君等の顔を認めたが、僅かに互ひに目禮を交すのみだつた。飛雪紛々、暗雲低迷、細尾峠の嶮は前途に在り、顧みれば犠牲を滿載せる檻車はなほ續いた。

二

大正八年の二月、出獄すると世は勞働爭議が熾烈を極め、勞働問題は旺盛に論ぜられて居た。同年の夏、足尾、釜石なり諸鑛山には、激烈なる勞働爭議が勃發し、多くの犠牲者を出した。釜石から上京して來た同志は坑夫の團結の危殆に瀕せる事情を訴へ、犠牲者の爲に辯護士の嘱托を依頼した。僕は直ちに布施辰治君を訪ねて事情を訴へ、同君の親切熱心なる快諾を得た。そして十二月の末、東京にはもう門松が立たうと云ふ時分、勞働團體の代表者數名と共に敵の重圍中に在つて孤軍奮闘しつゝある同志を應援せんが爲に、陸中釜石に赴むいた。

花の堂で下車して、輕便鐵道に揺らるゝこと數時間、名にし負ふ仙人峠の嶮にさしかゝるのである。積雪脛を沒するばかりだが、上りの路はさして嶮惡と云ふのではない。が、下りと來てはお話にならぬ位ゐで、殆んど切つ立つて居るが如き嶮路である。おまけに雪は凍つて居るし、靴穿きではあるし、歩くより滑つた方が寧ろ樂な位ゐで、兩脚に力を踏み入れるものだから、その後數日間、腿が痛んでならなかつた。

釜石では多くの坑夫に歡迎せられ、二日間に三回の演説會を開いた、三十日に歸京の途に就いた。一行は海路を運ぶ者と、陸路を運ぶ者とに別れたが、船に弱い僕は、他の二人と共に再び仙人峠を越えて花の堂に出づる事にした。坑夫の妻君達が子供を負ふて、平氣で嶮阪を上つて往く。坑夫が病人を負ふたり布團や飯櫃などを負ふて、ズンズン僕等を追ひ越して往く。然し僕等は、喘々として上つて往くのである。頂上に達する頃ほひ、風が雪を捲いて起り、寒威凛烈、肌を刺し肉を切るが如くである、峠の絶頂に立つて顧望すれば、屏風を立てて連ねた如き周圍の滿山は白皚々として疎林聳立せる谷底の雪の上には

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

何か知らぬが、獸の足痕が點々斑々として遠く縱横に奔つてゐる。西の方の山間からは、吹き捲く雪を透して僅かに蒼黑い海が顏を覗かせてゐる。

淒慘な光景！　悲愴な光景！

この雄深壯大な光景の裡に立つて、僕は釜石の孤城を死守せる社會戰の勇敢な戰士を顧み、はるかに彼等の健在を祈つた。

東京に歸つたのは大晦日の夕ぐれだつた。そして元日の夜汽車で大阪へ立つた。日本勞働新聞經營の事を協議する爲に。

2 腹をスヱタ時

加藤勘十

大正九年二月二十五日

數日來の烈しい鬪爭に同志は何れも著しい疲勞を感じてゐた。今日の行動と其の決果に就いては、誰一語語らうと云ふものなく、暗い沈痛な空氣は室一ぱいに流れてゐた。が、皆はお互ひに、數時間の後にはあることの起るであらうことを豫感せないではゐられなかつた。

廢墟のやうに淒寂な製鐵所を見おろした勞友診療所の奧座敷に、今日の作戰を凝しつゝあつた數人の同志は、暗い、重い、けれども緊張した決心を眉宇にハツキリ現はして、數日來の苦戰を洪笑して居た。最後を見極めて腹をスヱタ時には、崇高な感じの湧いて來るものだ。私はその時『もう來るぞ、吾々をかうして數日間野放の虎にして置いたのは、彼等の力が無力で、彼等の手でどうすることもなし得なかつたからだ……だが然し全體の空氣がかう頽滅して來たんじや、もう彼等のものだから終らね……』

私の言葉が終るか終らないに、玄關からかけ込んだ同志の一人はあはたゞしく『來ましたせ々々加藤さん！』と叫んだ。私は豫て覺悟してゐたから、別にどう云ふ感じも湧いて來なかつた。充分の打合せは濟んでゐたから『後をよろしく賴むせ』と一言殘して玄關に出た。警察の使ひ――刑事――は極り惡さうに『警察部長殿が一寸御用ださうですから一寸署まで御出でを願ひたいですが……』と切り口上だ。私は頭から『馬鹿ア云ふな、そんな嘘を云はなくつたつて、檢事からの使いなら使いとハツキリ云へ、今日になつて部長が用事があるなんぞと、ソツチに用があるか知らんが、コツチにや用事はないんだ、今になつて一時間や二時間爭つたつて仕方がない。俺は檢事の召喚だと思つて行つてやるよ』と私はかうして數人の同志に送られて署へ行つた。

署の高等の室へ行くと、藤岡君も光吉君もやつて來た。お互ひに『ヤアー』『ヤアー』と言葉を交しながら『これで當分骨休めが出來ると云ふものだ』と戯談云ひながら、誰の顏にもこれから牢獄の鐵鎖につながれるんだと云ふやうな暗い氣分の微塵も浮んでゐないのを見て、私は淚の出るほどの嬉しさを抑ゆることが出來なかつた。

3 昔の辛さと今の甘さ

吉田只次

變れば變る世の中だ。昔は社會主義者と云へば政府が目の敵にして壓迫したものだ。勤め先に干渉して職を奪ふやら、書籍と云はず新聞と云はず雜誌と云はず社會主義者の發行に係るものでさへあれば、內容の如何に拘はらず、片ッ端から發賣を禁止されたものだ。何でも社會主義者を食へないやうにして了へと云ふのが、當時お上の方針であつたらしい。それでも社會主義者がどうにか壽命を繋いで居るのを見て、彼等はどうして食つて居るんだらうと云ふのが當時お役人の口癖となつて居た、さうして社會主義者がそれでも生きて居ると云ふことが、一般の世人からも一種の奇蹟のやうに思はれて居た。そんな譯で、社會主義者が壓迫を受けたのは政府からばかりではなかつた。社會主義者として當時末席を汚して居た僕でさへ、貴樣等のやうな國賊は八ツ裂きにしても飽き足らぬなどと罵られたことさへあつた。從つて其當時社會主義を說明しても、十人の內七人には極力反對されたものだ、それでは十人の內三人は贊成したかと云へば、さうではなくて唯傍觀の態度を執つて居るに過ぎなくて、眞に贊成するものは千人に一人か萬人に一人位であつた。

處が此節では、吾輩は社會主義者で御座いと云つたばかりで握り金玉で食つて行けるやうになつたばかりか、社會主義者の說明をすれば、十人の內七人までは直樣贊成だ、それでは十人の內三人は極力反對かと云へば、さうではなくて唯形勢觀望の態度を執つて居るに過ぎなくて、極力反對だと云ふのは千人に一人か一萬人に一人位になつたとは變れば變る世の中だ。

鑄物工場の思ひ出

頭の上では、クレンがうなつて釣てゐる巨大な怪物で叩き付けようとするし、卽ち千貫二千貫の鎔鐵を飲んだ鍋は、ヒツぱがれて眞赤な熱を湛へ、觸れる者をヂユーと燒いてやろふとしてゐる。高く積上られたカナクタは、絕えないさゲラゲラと行くぞと、危ふげに知せてゐる。それを見た職長は今しがた駄目だぞと注意して去つた。鐵片や燒瓦は散らばつて此處鑄物工場は燒石原のゴロゴロ谷のようだ。燒け切つた土ぼこりは絕えず舞ひ上つて、職工の呼吸を止め、滴る熱汗を黑く染める。今まで、なにか靜に爭つてゐた二人は、既に青服の釦を飛ばしシヤツは引ちぎつてなげ棄て、一丈二尺の雄姿に氣負立つて、『何生意氣だこの野郎』『何を』と眞青になつて大格闘を初めた。

五六年前にはこうした機械の威嚇の下に絕へず、凄まじい勞働者同士の肉體的鬪爭が演じられてゐた。

『なめろない』は、當時、私逹仲間の標語であつた。だが當時の仲間よ、弱い友達をやつゝけて、粗暴を誇つたのは、何も仲間を苦しめたいのではなくて、實はおさなしくしてゐると突拍子もなく賃銀單價をコギリ下ろ親方に對して、無意識の間に間接の示威をやつてゐたのではなかろうか。更に親方の背後にある資本制度への示威をも、含んでゐたのではなかろうか。

數萬年間動物の世界に戰つて來た人類の戰闘本能は、眞の敵を發見する直觀力を養はしめた。たゞ、戰闘の方法に對して、無反省の間は、此のやうな形を以つて本能が現はれるのである。近代の階級鬪爭は、要するに、仲間同士が、工場で殴り合つた心が本當の姿を以つて現れたものである。

4 苦しかつた瞬間

京谷周一

大正八年十一月末の足尾銅山の罷工の時、――罷工狀態の第一日、もう全山の鑛夫間には猛烈な憤激が擴つて行つた。

それは、その前日に古河工業所へ提出した、第一回の要求條件が、全部物の見事に拒絕されたが爲であつた。（この時、會社が拒絕したその堂々たる態度の中には、無論ブローカー松葉、綱島及その配下柴崎甚平に與へた、五千圓の金があつたが故である事は、後日公判廷で知れた）

當日は、通洞の日本鑛山勞働同盟會（當時の運動主體）本部には、本山、小瀧、通洞の各高級幹部員が詰めかけて、再後の方針確立と、對策の疑議に熱してゐた。

その評議の席へは、各方面の氣勢が報告されて來る。險惡な熱度は全山を擧げて、刻々高まつて行く事が誰にも信ぜられた

『サテ如何にするか？』

その最後の一途、團體としてのこの運動の方針が、未だ確立してゐない現在、たゞ、誰の胸にもあるのは何でも可いからやれ！　といふ悲壯な熱丈であるらしい。

私はこの狀態を視ながら、妙な頰のほてる寒さを覺えてぢつと考へて居た。

と、その時、表の玄關口へ來て大聲に喚鳴る聲がした。

それを聞いた私は、妙な不安や豫感に、胸をそゝられながら玄關に出た

『や、Sちやんぢやないか』

その聲の主を見た私は、新しく驚いたが、何事もその瞬間に諒解が出來た。

彼はもと、裁判所の雇となつて苦學をしてゐた程、世間なみの希望を持つた青年であつたが持前の熱し易い一本調子の性質は、遂に彼を驅つて、一番異質の人交際の出來る、勞働者仲間へ入らしめたのであつた。

彼の口から、焔の如うな言葉が漏れた『何時迄でぐづ〳〵して居るか？　生命位は何十でも要らぬ人間を連れて來るから、何とかハッキリした行動を、今直ぐに始めろ！』。彼は息せきながら、繰り返し〳〵、叫ぶのであつた。この話を聞きながら私は、たゞ、うなづき〳〵、彼を玄關脇の座敷へ引き入れた。

その時、突嗟に私の頭に湧いた考は、此の熱し切つた男を、如何にして、暫く爆發から抑へるかといふ事であつた。彼の背後には、ダイヤやタガネを手に把らんばかりにして、殺氣立つた一萬の鑛夫が彼と同じ叫を擧げてゐるやうに思はれた。

『よし、やるとも、……然しまだほんのすこし待つて呉れ、その前に、ちよつとこの謄寫版刷りを頼みたい？』。

謄寫版を刷らす。それが、瞬間に、私に浮んだ、彼を抑へる途であつた。

そして、漸々乍ら、遂に、ルーラのハンドルを握つて、彼が謄寫版の前に座つたのを視た私は、本當に、大きな危險から飛び出したやうな安心を覺えた。

まあよかつた。それが腹の底から込み上げた。

心ひそかにSちやんに謝した

「例へ何にしても、この一刻は君を欺いて、君丈を去勢するの他はない、これも直ぐ判る事だから、……………」

團體運動が、いよ〳〵白熱化せんとする時、破壞性の熱度が一度に高まつて來る、その時には、團體の內部に、自己抑制を計る分子の必要を要する事となる。私は、その經驗をしみ〳〵此の時に得た。

5 米騷動の頃

水沼辰夫

大正六年から七年へかけての急激な物價の騰貴は、さらでも貧しい吾々勞働者の生活をいたく脅かした。賃金値上の運動は至る處に起り、ストライキは隨所に勃發した。其の當時博文館印刷所に働いて居た吾々も、其の例にもれず、賃金三割增しの要求をしたが、見事に拒絕され、然らばとストライキをやつたがこれ亦失敗に了り、大部分は無條件で復職し、それを肯じなかつた歐文工の全部と和文工の一部は他へ就職口を探すことゝなつた。

爭議に失敗した吾々は、其の失敗を大いに利用するつもりで『孤立吾等を殺す』と題するビラを作つて各印刷工場其他へ配布した。時恰も越中富山の女房連によつて口火を切られた、あの米騷動の最中であつたゝめ、ビラは警察官に押收され、配布を引受けた信友會員は全部檢束された、殊にストライキに加はつたものなどは、米騷動の全く靜まる迄拘禁され、信友會を脫會しなければ歸さぬと脅迫されたものも少くなかつた。爲めに信友會は脫會者が續出し、脫會屆を端書に實印を押して屆けるもの、內容證明の郵便で屆けるもの、甚だしいのは警察署から捺られた脫會屆けさへあつた。

かくして信友會は散々に切り崩されて了つた。

官憲が何故そんなに信友會を壓迫したかといふと、會員の一部が密かに社會主義の宣傳に努めて居るからといふのだ。

社會主義といへばもう誰かゞいつたやうに組合勞働者の常識になつて了つて、如何なる社會主義が吾々勞働者の望むところのものかといふ程度に達して居る今日から回想すれば馬鹿々々しいやうにも感ぜられるが、今でも尙斯ういふ杞憂が絕無ではあるまい。

百〇一房にて

高野松太郎

×

赤煉瓦の高塀の上に
やわらかに
積りては融くる春の雪かな

×

豆のごと
からだが小さくなる術を
知らばやらむと思ひしことゝも

×

ここぼれし鴉な箸のさきにして
小中日
床に顔など浮きてあそべり

×

臭飯に
饂飩がすこし添へてあり
半分の春の彼岸の中日

×

ことさらにこわき顔して
物を思へる
さつきのわれのいとほしきかな

×

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四方の友達

北京から

―エロセンコ君の最近の手紙―

（日本の一同志に宛てたるもの）

いつか、君が支那人と一緒に撮つた手紙は、確かに受取りました。

僕は、皆さんがあまりおとなしくなつたのを感心してゐます。やはり、若い連中はちよいく監獄に這入らなければおとなしくならないものですね。

日會といふものは、今どうしてゐるのでせうか。こないだ、こちらへ來た同志から聞くと、坊主の賢ちやんも、上海で法螺吹いた平田も、何か雜誌をやつてるさうですね。そんなに澤山な雜誌が出てる日本帝國は何といふ雜誌の多い國になるのでしやう。

僕は、こないだ露西亞に行つた。

モスカウでは、新聞がたゞ二つしかありません。雜誌もよいのが二三種でした。そして、その新聞や雜誌を方々へ無料で配つてゐるのです。

それでも、それを讀む人が極めて少ない。

『お父さん、どうして新聞や雜誌を讀まないの』と僕が父に訊くと、父は、『なんだ、つまらないもんだ。いくらいゝ議論を書いたつて、それを實行することが出來なければ駄目だ。』と言つた。僕は父『だつて實行するのは、あなた達農民と勞働者です。あなた達のために議論を書いてるんですよ。』と言ふと、『さうか、御苦勞』と言つて父が笑つた。僕は、議論といふものは、結局作者が自分を慰めるために書いてるのだと思つた。

『とにかく御苦勞』と言つて、父がまた笑つた。僕は顔を赤くした。

そして、僕が日本で書いた二册の本を、親に土產として持つて行き、本箱の上に皆に見へるやうに載せてゐたが、僕は、その本を誰も見ないやうに行李の中にかくして、支那へ歸る時一緒に持つて來た。あゝ、何といふ議論嫌いな國だらう。顔が赤くなるほど。

其の日稼ぎの心

横濱 糸川生

今現に横濱には其日かせぎの勞働者だけでも五萬人以上居るが其主なる者は、沖仲仕、石炭人夫等である。昨年以來の不景氣の爲め其生活は實に悲慘である。この多數の者は其の日其の日に仕事を探さなければならぬのであるから朝は三時頃から起きて、おたがひに競爭して如何に安い仕事でも奪いあいをするので、其れにつけ込んで、强慾な運送屋は不當な利益を、貪ぼるのである。

現在の様な不景氣では仕事が少いから如何に安い賃銀を支拂はれても、如何に酷使されても毎日顔を下げて仕事をしなければならぬのである。朝早くから波止場に出ても仕事にかゝれずに、アブレて歸る者が毎日幾萬人となくあるが、其多數のアブレた者は、家には妻子や、亦は一人者なれば宿屋の主人が首を長くして勘定を持つて來るのを待つて居るのだから、直ぐに家にも歸れず、公園や稅關前に飢えと寒さに慄えながら仕事の出るのを待つて居るのである。此の公園のベンチや、稅關の赤い煉瓦塀の、あたりに蒼白な顔をした勞働者が日中多く居るのを見て、資本家は仕事のきらいな、怠け者の様に見て居るであらうが、其實是等多くの勞働者は仕事をしたくも働く所のない者や、働く所はあつても、過度の勞働の爲め身體は、つまらぬ老人や病人なのである。

仕事は五時頃からかゝるのであるが、仕事にかゝつたが最後一つ間違へば命にかゝはる様な、危險な仕事を夕方の六時頃まで續けるのである。勘定は運送屋が勝手に仕拂ふので、いくら安く拂はれても不服を言へば一言の下に貴様の様な奴は是れからは使つてやらぬから明日から來るなと云はれるのである。此の一言は現在の勞働者に取つては死の宣告をあたへられたも、同然であるから、皆、泣寢入りになつて仕舞ふのである。そうした生活の不安に襲はれつゝ一日働いて、夕方家に歸れば高利や其他の借金取りに苦められるのであるから、社會に住んで居ると言ふだけで其實終身刑を受けて、居るも同然である。其のやうな事情の下にある大多數の勞働者は主義も理想もあつたものでない。只目前のパンを求むる以外には何物もないので、パンを得る爲めなら×××の手傳いでも××の提燈持ちでも不平氣でやる事ともならう。而もそれは、資本主義と言ふ現在の制度に原因するのであつて、一方世の中には、資本家の手の中にはあり餘る富が溜つてゐる。このあり餘つた食物を自由に取つて食ふ事が出來る事なれば、たといそれは大地獄でも大暴風でも大事でも大××でも何でもいゝ。一刻も早く何か事あれかしと多數は待つてゐるのである。

漁村の機械化

房州一の宮 伊藤三郎

千葉縣の一の宮から大東岬に至る間の海岸には、從來アゲリと言ふ漁具が、約四十組あつた。アゲリと言ふのは、二つの漁舟と一つの網とを一組としたもので其の使用には五十人位の漁師がかゝる。それで、此の邊一帶の四十組のアゲリで、約二千人の漁師が稼いで居た譯である。

その所へ、此の邊では機械アゲリと言ふのが現はれた。それは同一の構造の、數倍規模の大きいもので、石油發動機を動力として近海を一帶に搔廻す者である。一の宮から大東の沖に出漁する機械アゲリは五組ぐらいのものであつたが、それに依つて、從來の四十組のアゲリは全く領域を奪はれて了つた。漁師が如何に骨を折つても、機械アゲリが沖手に廻つて荒すので、殆んど漁獲は全滅して了つた。網持ちは引合はないので、一齊に休業するの他は無くなつた。

そうなると、今まで四十組のアゲリにかゝつて居た二千人内外の漁師は全然休業する事となつた。假りに、取つて代つた機械アゲリの乘組が皆此の二千人の中から出るとしても、一組に百人位しか要らないから、僅々五百人しか轉業出來ない。それで、千五百人位は確實に失業する事となる。

一体此の邊のプロレタリアは中農中漁であるが、根底となるは漁師であつて、その殘つた勞働力を農業に廻してゐる。それで漁師の方で失業すれば、それだけの人が農業の方へドツと押し寄せた譯であるが、農業と言へば體裁はいゝもの、無論小作人の事である。

小作人の激增は地主との關係に新しい事情を生じた。即ち、地主の鼻息が荒くなつて、小作人の腰が弱くなるのである小作條件の爭ひなどに於て、小作人が過剩だと言ふ事は、都會の勞働爭議で失業勞働者が背後に控えて居ると同一の不利益な事情を招くのである。

資本の集中、大資本が、小資本を壓倒し併呑して行くと言ふ、工業界に於ける大勢は同じ形を以つて他の産業にも現はれるものであるが、差し當り房州の漁業では右の如くに出現した。

その事から受ける一般無産階級の惡影響も亦、工業の場合と大差はない。このやうにして、社會全體の惡化は段々甚しくなつて行くのである。

資本主義社會の階級的分裂の道を開いた近世的大機械は、先づ工業に侵入されたのであるが、今や、同じ生産方法がこのやうに農業にも漁業にも、採用されやうとしてゐるのである。

春四月
牢舍の庭の片隅の
名もなき花も赤く咲みぬ

×

看守等の叱聲になりて騷ぐよな
ことあれと願ふ
何の心ぞ

×

晴れし日の日課になりぬ
鐵窓によりて
遙かに富士をみること

×

ある男の
とある詭策に賭けたりし
金の利かぞへき
春の日長し

×

ぢつとして
牢舍の冬の凍傷の
瘡を見つむる
心さびしも

×

どうせかうなるなら
もつと本氣にてやればよかつたと
今日も思へる

×

その昔
醉へば唄ひし憂治の
破牢の歌をふと唄ひ見し

×

遠くよりラッパの音聞ゆ
ラッパの音聞けば腹立つ
故を知らずも

×

窓を脱ける術のなきや
と一としきり今日も思へり
はかなく悲し

×

友の入れし詩集を見しが
解し得ず
泣きたくなりて本をなげうつ

×

烙印のごとく
思ひて氣まづかり
牢舍の冬の指の凍傷痕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新講談 女間諜

岡千代彦

第一回

隅田川紡績會社の汽笛が闇を衝て、ケタタマしく鳴ります、夜業をして居た六百の男女の職工が、何事か起つたかと不安の眉を顰めて〽何でせうね」◎『サア何でせうか』×『何だんべい、先刻十二時の休みが鳴つたばかりだに、なんで鳴るだらふ、只事だなかんべい』甲『一寸と、お糸さん、火事ぢやないでせうか』乙『火事ぢやないことよ火事なら報告機が出るわ、お前さんは知らないがね、十年程前に、粗紡機の工場から火が出た時に、女工が逃るからとて、戸を占た爲めに、女工さんが廿人程死んだり、怪我をしたものが澤山あつたの、夫れから此方火事があると報知機が出ることになつて居るから、火事ではないが何か非常なことがあつたに違ひないのよ』一同が騷いで居ります内に、轟々と廻つて居た機關がぴたりと止つて工場全體が急に靜かになり、只だ駈ける靴の音が時々聞えるばかりです。

機關室の壹部で、上部は一面幾筋かのロツプが通つて居つていろ〳〵の機械を廻す元です、下はトンネルのやうになつて通道になつて居りますけれども、機關部のもの丶外は滅多に人が通りません、この高い處にあるシャプトに油を注に來ました、十六七の男の兒が、睡い眼を擦りながら、やつて來ましたが、つい過まつてロツプに卷込まれて了ひました悲鳴をあげたけれども轟々たる機關の音と、夜中のこととて聞えなかつた爲に、無慘の死を遂げました、程經て通りかゝつた吾妻殿と云ふ、同僚が發見ましたから、早速に非常汽笛を鳴らして急を告げたのですが、既に縡切れて居りましたので、會社では直ぐお抱えの醫者に死亡屆を作成させて、密かに火葬に附して、何事があつたのか事實を知るものは少なかつたのです。

隅田川紡績會社の社長は實業界で有名な武山勝治と云ふ人で只今でこそ、職工の待遇は紡績界の模範だなど丶申して居りますが、非常時は無限地獄と云ふ評判を取つた工場で、隅田村の一角に女工の墮胎所が設けられてあつたと云ふ位に風俗は紊亂し、食物などは、實に酷いものを食せて居たのですから、女工達の歌に

米の寶木は見たことあれど
米の御飯は、まだ見ない
三度〳〵のお菜は香々
之が本統のオヤこう〳〵

之れだけでも職工の待遇方が解ります、從つて萬事がケチで狡猾で、吝嗇で利益の前には義理も人情も、道德も法律もありません、事務員なども唯だ重役の鼻息ばかり伺つて、職工の待遇法など金の入費ことは考えません社長が涙を滾したのは、蕎麥屋で慾張つて胡椒を澤山に摘み入れた時ばかり出したさうです　工『お前は誰の命令で非常汽笛を鳴らしたのだ』工務係の桑田と云ふのが十七八位の少年を卓子の前に立せて、七六つケしい顏をして居ります、少年は兩手を隱袋に入れたまゝ默つて下を向いて居りました　工『吾妻誰が命令したのか、夫れが解れば、お前に責任はない、誰が命令したのだ』吾『誰れも致しません、私が大變だと思ふて汽笛を鳴したのです』工『何が大變だ、逢坂が自分で過失をしただけの事だ、自分が不注意の爲めに死んだのだ』吾『死で居たのは大變だと思ふたのです、非常な出來事と思ふたのです』工『ハ、非常千五百人からの人を使つて居て其中で一人や二人の怪我人が出たり、死人があつたとて珍らしくはない、夫れを一々騷ぎ立てて、非常ぢや、大變だと云ふて汽笛を鳴して機關を止めては會社は立て行かない、十分間機關を止めると、五十圓や百圓の損害ぢやない』吾『でも人命には代られぬでせう』工『夫がお前の生意氣と云ふものだ、乃公は、さう云ふ理屈は嫌いだ、人の掛替は幾らでもあるが、過ぎた時間は取返しがつかぬ、お前のやうな、生意氣をする人は使用することは出來ぬ、今日限りで退社を命ずる』吾『では解僱ですか』工『さうだ、お前のやうなものが居ては、會社は損害するばかりぢや……夫れから解僱したからには、工場へ入つてはならない』吾『工場には、私の着物や履物、それから辨當箱もあります』工『そんなものは、モー此の事務所へ取寄せてある、それ、今日までの日給も計算してある』吾妻殿は荷物を受取つて、悄々と立去らうとしました、工務係の桑田は何を思ひ出したのか、工『オイ吾妻、逢坂が過失で死だことを餘り饒舌らない方がお前の爲になると思ふよ、それが原因で、お前が會社を解僱されたと云ふことが知れると、他所の會社で使つて呉れないから……會社の方では、お前を不都合として解僱するが、乃公はお前の前途に對して大に同情するよこれは會社からではない、乃公がお前に餞別をする、取て置け、だが呉れ〳〵も云つて置く、逢坂の死んだ事は饒舌つてはならない、よろしいか……』五圓札を一枚渡さうとしましたが、夫れを突返し　吾『折角ですが、私は不用ません、お志があるなら逢坂に線香の一本も買つて上てやつて下さい、さうして逢坂の姉が此會社に居るさうですから、夫れを慰めてやつて下さい實に氣の毒な事をしました、逢坂は慘死する、私は首を切られる隨分會社では冷酷ですね……』憤然として門を出て、隅田村の下宿屋、清元の師匠延登志の家へ歸つて參りました。吾妻殿は、包を抱へたまゝ二階へ上らうとするのを、延登志が呼止めて　延『吾妻さん、一寸お話することがありますよ』吾『なんです、急ぎですか』延『ハイ急な事で、一寸顏が借たいの』吾『僕も遽かに用事が出來たから、後ではどうです』延『手間、隙は取せませぬが、まアこゝへ御座りなさいよ……貴君は今日限りで會社の方を斷はられたさうですね』吾『さうです、斷はられました夫れで其善後策の爲めに一寸行たい處があるんですが、貴女の方へモー知れて居たんですか』

東京市芝區三田同朋町 三田支店
東京市日本橋區元濱町 元濱町支店
東京市日本橋區瀬戸物町
株式會社 古河銀行
大阪市東區今橋三丁目 大阪支店
大阪市西區新町四丁目 新町支店
大阪市北區安治川通 安治川支店

高等ブラシ各種
并ニ金屬雜貨 卸商
奥野佐之助
大阪市東區備後町二丁目堺筋
電話本局 二三六六番

株式會社
臺灣銀行
（臺北）

支店 出張所
臺灣（基隆、臺中、嘉義、臺南、高雄、宜蘭、淡水、桃園、新竹、南投、屏東、臺東港、花蓮、膨湖島
內地 東京、橫濱、大阪、神戸、門司

支店 出張所
支那（上海、九江、漢口、福州、厦門、汕頭、香港、廣東
南洋（新嘉坡、スラバヤ、スマラン、バタビヤ、孟買、盤谷
歐米 倫敦、紐育

資本金 八千萬圓
拂込濟資本金 五千萬圓
積立金 壹千二十九萬圓

本店 朝鮮京城大門通
振替貯金口座 京城三三三番

預金、貸出、割引、海外諸爲替、地金銀の賣買其他一般銀行業務並朝鮮滿州及浦潮斯德及亞港に於て金庫事務を取扱中候

朝鮮銀行
總裁 美濃部俊吉

支店 出張所
內地 東京、大阪、神戸、下關
朝鮮 釜山、大連、仁川、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、清津、會寧
滿洲（大連、旅順、營口、遼陽、奉天、奉天新市街、鐵嶺、開原、四平街、鄭家屯、長春、吉林、安東縣、龍井村、哈爾賓、傅家甸
支那 上海、青島、天津、濟南
露領 浦潮斯德（貨幣交換所……スパスカヤ、ニコリスク）亞港
米國 紐育

右の外倫敦、巴里其他内外樞要の地に爲替取引先有之候

□日本橋區吳服町□
帝國生命保険株式會社
電話本局
九五
三三八
一六五七
三三七四

京橋南新堀二ノ四
東京コークス販賣株式會社
社長 阿部吾市
專務取締役 巖谷朴助
專務取締役 鈴木太郎

銀座一丁目
電話京橋八一五、八一六、四三一七四
振替口座東京三八〇〇〇
永樂銀行
帝國貯蓄銀行
專務取締役 關谷鎭太郎
取締役支配人 金井長藏
支店
飯倉三丁目 牛込神樂坂 南品川一丁目
赤坂表町 淺草花川戸 横濱戸部町
四谷大通り 神田須田町 大阪九條通
本郷一丁目 兩國元柳町

森永ミルクキャラメル
森永ミルクチヨコレート
森永ゼリビンズ
森永ミルクココア
森永ミルク（煉乳）
森永ドライミルク（粉末牛乳）

東京芝大門
株式會社 不動貯金銀行
頭取 牧野元次郎

產前產後の血の道の藥
喜谷 實母散
▲全國到る處に販賣す僞物有り御求の際は喜谷實母散と御指名願上候
東京市京橋區中橋大鋸町
本舗 喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番、五六番
振替口座二一五四番

◇大阪長堀橋◇
高島屋呉服店
京都五條……東京中橋

◇大阪心齋橋◇
大丸呉服店
京都四條……神戸元町

東京市下谷區上野廣小路
いとう呉服店
松坂屋

第一卷第一號 大正十二年二月一日發行 毎月一回 定價 一部十錢 一年一圓 發行所 東京府下荏原郡大井町鈴ヶ森 一四七八（振替東京 一二八七四）日本勞働協會
大正十二年一月 日第三種郵便物認可